親潮２９７号に未掲載の追悼文

信念を貫いた奇特な人
　天国の久保達郎　先生へ

青木義博（昭 42 ゾ）

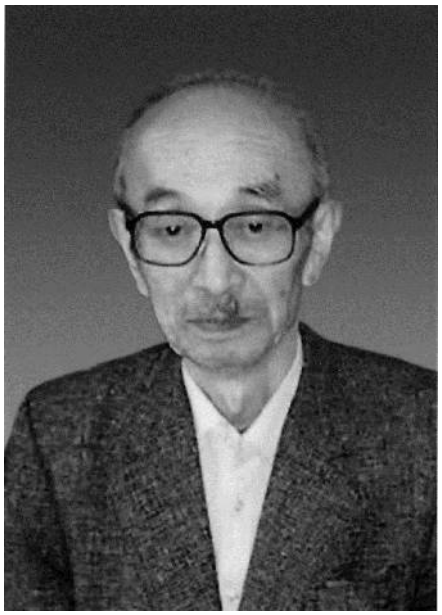
　今年の冬は格別に寒い日が続いたので大変だったのでしょうね。
　この度の訃報を知り先生との思い出を記すことにします。
　今年以上に寒い数年前「自宅の寝室が時折氷点下に成るので大変　年には勝てず」と奥様共々老人ホームにお世話になるとの賀状を頂き、ある意味で安堵しておりました。律義な先生には賀状もかえって負担になると思いその後はこちらから欠礼して、先生ご夫妻の健康・長寿をひたすらご祈念するのみでした。
　私が講座に入り先生の講義で実習があり、終えて道路わきにあった古くて少しかしがった先生の自宅で体が温まるからと言って学生達に奥様手作りの甘酒が振舞われたのですが家ごとかしがっていたのでお膳に置いたお椀がツウーて滑るので一気に飲み心身温まり本当の人の優しさと温もりを感じた者が多かったと思います。
　それ以来私は飾らない実直な先生のファンになりました。その後間もなく同地域の高台に立派な家を新築され早速お邪魔すると相変わらずの唐突な語り口調ですが魚の生息と自然の大切さを身を持ってあらゆる河川の現場での体験談は何時になく熱が入ってきます。乾物肴に冷酒がついつい進みます。
　卒業後の就職の世話もして頂きお陰様で職場ではまさに水を得た魚のように云わば天職として周りの同窓先輩に恵まれその後の私の人生を決定することになりましたのも先生のお陰で心より感謝しております。
　私が社会人になってから学会が東京で開催されると連絡があり一人住まいの団地に寄って頂きましたが「男やもめにウジが湧く」「君が良ければいい人がいるが」「実習場に事務のアルバイトに来た人だが誰もやらないトイレの掃除をしてくれた」今流行の歌みたいなことで私の嫁さんも先生の見立てで、今もって良い家内に巡り会えたと先生ご夫妻には感謝しております。

先生は酔って気持ち悪くなるほど乗り物に弱く雨風雪に関係なく、良くバイクを利用しておりました。勿論修理も悪戦苦闘しながらご自分でしてました。

乗り物に弱い先生が東京の学会に連絡船と飛行機と電車に乗り継いで大変な思いをした事を想像するに難くはありませんでした。ある時学会を終えて小生宅に向う電車の中で倒れ「今　大宮の総合病院に救急車で運ばれ２～３日入院する事になりました」と連絡が入り病院に行って見ると「大宮を過ぎると途端に空気が良くなるね」と意外と元気で安心したことも今では良い思い出です。

先生　お疲れ様でした　どうか　安らかにお休み下さい。合掌

出来の悪い教え子より



小野君の思い出

渋谷和治（昭 51 ゾ）

昭和 46 年に入学し、51 年水産学部増殖学科植物学講座を卒業した渋谷と申します。現在、秋田県農林水産技術センター水産振興センターに勤めております。

この度の東日本大震災により、札幌と函館を通じた大切な友人である小野隆男君（昭和 50 年食品学科卒業）が亡くなりました。大変に残念で、故人の御冥福を心からお祈り申し上げます。また、奥様始め、御家族様には心からお悔やみを申し上げます。津波により気仙沼市の自宅、経営する会社も壊滅的な打撃を受けたということで、心からお見舞い申し上げます。

小野君との出会いは、北大合格発表後の昭和 46 年 3 月に仙台市で行われた仙台学寮の入寮選考でした。面接終了後、簡単なつまみと飲み物で会食し、最後に“都ぞ弥生”と“水産放浪歌”を初めて耳にしながら、大学生としての始まりを実感しました。ともに運よく入寮が許可され、寮生活が始まりました。遠く離れた札幌ということだったのですが、お互いに若かったし、不安など全くなく、北の未知の大地における新たな生活への期待感で一杯でした。

入寮後は、受験勉強から解放され、北大生 30 人と小さな寮の一日一日がとても新鮮でした。高校時代は小野君同様、男子校で学び、女子への免疫ができてない状況での強制的に参加させられた社交ダンスの講習会は、最初の驚愕だったように記憶しております。寒い北の大地ということで、季節、季節のイベントなどは強烈な記憶として刻まれており、いずれも小野君はじめ寮生との共有の思い出です。

とりわけ、仙台学寮におけるマトンと酒をたらふく堪能したジンギスカンパーティー、節目、節目のコンパ、酔って近くの寮をまわるストーム、刺激的だったダンパー、部屋や寮の前の庭における語らい、藻岩山の山開き登山、北大構内におけるタンポポの群生、雪まつり、ライラック祭り、北海道神宮のお祭り、色々なアルバイト、円山でのスケート等々今思えば、夢のように楽しい、楽しい日々の札幌で、いずれも小野君たちとの共有の思い出です。

私は子供のころから山菜取りなどが好きで、今でもよく野山を徘徊するのですが、何気ない風、香り、色、天候、季節などが「あっ、これはあの時のだ！」と懐かしい北海道での出来事などを思い出します。

小野君とは水産類、ドイツ語選択ということで、二人とも1年36組とクラスも同じで、講義の開始時刻が同じであることが多く、便利な自転車なども持ってなかったことから寮から教養部までよく一緒に歩いて通いました。教養部までは、寮からは30分ほどかかり、線路を渡り、農学部横の芝生の中を通り、エルムの大木の中をいつも語り合いながら通学しておりました。小野君は卓球部、私は空手部で、ともに、教養時代はかなりハードなスポーツに励みました。クラブ活動以外はよく一緒に行動しており、まさに、他の寮生も含め、寝食と多くの苦楽を共にしておりました。

仙台学寮昭和46年入学の同期は小野君（水産）、岡本春行（農：京都府出身、京都府在住）、小野寺誠（工：仙台市出身、仙台市在住）、佐々木繁（理：仙台市出身、神奈川県在住）、四條康行（工：神奈川県出身、長野県在住）、鈴木（工：仙台市出身、故人）、西平大介（農：宮崎県出身、宮崎県在住）、伏見善之（工：旧古川市出身、北海道在住）、渋谷和治（水産：旧宮崎町出身、秋田県在住）の 9 名で、ともに札幌での青春を謳歌し、北海道を離れてからも、メール等で連絡を取り合っておりました。

一昨年には、仙台市に 7 人（一人は家族の不幸により翌日参加）が集い、1泊で本当に楽しい、楽しい一時を過ごしました。久しぶりでの逢瀬で、最初、若干の風貌変化等感じましたが、途端に懐かしい札幌時代に戻り、盛り上がりました。昨年は、残念ながら鈴木卓麻君が亡くなり、都合により私は葬式前日に行き、小野君は葬式に参列となり１日違いで会えませんでしたが、これまで、連絡を取り合ってきた、多感な青春時代の思い出を共有した、かけがえのない、友人でした。

今年の8月には札幌時代によく通った懐かしのススキノの居酒屋「金富士」（銚子1本が50円で、お通しが3本目まで無料でつき、500円でほぼ酩酊出来ました）に集結しようと、提案させていただき、再会を楽しみにしておりました。

現役合格で、優秀かつ真面目であった小野君にはクラスも一緒だったこともあり、試験の前にはノートを見せていただくなどよく助けていただきました。また、小野君は酒席では顔は真っ赤になるのですが、節度のある飲み方で、飲まれるタイプであった私はよく面倒を見ていただきました。

また、私は、2 年生になると、種々の事情により大学から遠ざかり、アルバイトに専念するようになり、2年の 10 月に函館に移行できず、札幌にとどまりましたが、小野君は順調に函館の水産学部食品学科に

移行し、北晨寮に入寮しました。函館に移行した後もよく卓球の試合で札幌に来た時など一緒に街に繰り出し、ススキノで楽しい時を過ごし、仙台学寮に宿泊しておりました。一年遅れで私も北晨寮に入り、ブロック(5〜10人程度のブロック制でした)は異なっていたのですが、函館でも何かとお世話になり、一緒に語らい、食事をしたりして過ごしておりました。

確か小野君は体調を崩された時期もありましたが、卒業後、進学の目標でもあった家業を継ぐため、気仙沼に帰りました。私は劣等生であったため、卒業は 1 年遅れでしたが、運よく秋田県にお世話になることになりました。気仙沼と秋田ということで、離れてはいましたが、連絡だけは取り合ってきました。メール等では、私などとは違った別の観点、考えなどを披露するとともに、会社経営の難しさなども吐露し、奥様始めお子様たち家族のために頑張っている様子が伝わってきました。

数年前に気仙沼にお邪魔した際も、一昨年仙台で会った時も体型も含め、昔のまんまの気仙沼弁のシャイな小野君でした。私は小野君よりも 1 歳年上なのに、学生時代もそうだったのですが、なんでも相談できる、同年齢以上と錯覚させるような、生涯の友人でした。

今回の東日本大震災の際は男鹿市にある職場で経験したのですが、職場は地盤が固いとは言え、かなり長時間揺れ、すぐ停電し、ただ事でないことを感じました。その後、携帯電話のテレビに映し出される津波の襲来は直視できないような惨状でした。

仙台学寮の仲間からは「気仙沼の小野は大丈夫か？」「小野に連絡したがつながらない」などのメールが飛び交う中、3 月 16 日に“Google person finder”で知った四條君から残酷にも「小野は津波にやられた」のメールが入りました。震災前日には、3 月 9 日におきた震度 4 の地震に関連し、小野君から津波に関したメールが入っており、その翌日には、突然に小野君が津波により亡くなり、本当に気の毒で、かわいそうで、残念でたまりません。

電話で数回お話した奥様は、辛い体験の後なのにもかかわらず、気丈に応対していただきましたし、東京で学生生活を送る御子息の隆平さんは、小野君の子供らしくとても礼儀正しく、しっかりした若人でした。でも、奥様始め御家族の皆様は私どもには想像できないような過酷で辛い体験をし、その後も大変な日々をお過ごしのことと思います。現在、奥様は、お嬢様がお住まいの宮城県大崎市でアパート住まいをしておられ、震災後の会社の整理等で、気仙沼市と大崎市を行き

来しているとのことでした。
　大震災による被害は甚大過ぎて御家族様におかれましてはお気持ちも整理できないような状況と推察しますが、御自愛いただき、少しでも安らぎが感じられるような時が一刻でも早く訪れますよう祈念するばかりです。
　私達仙台学寮昭和 46 年入学の同期は 7 人になってしましましたが、札幌の金富士ツアーは延期することとし、今年の 8 月に宮城県に集うべく日程調整を行っているところです。
　この後、梅雨も間近で、その後は暑い夏が到来します。御家族様におかれましては、まだまだ気が休まることはなく、大変な日々が続くと思います。どうか、お体を大切に、少しずつ、少しずつ前進していただくよう御祈念申し上げ、小野君の御冥福を重ねてお祈り申し揚げます。
　また、被災された方々に少しでも平穏な日々が訪れますことと、被害を受けた地方の一日も早い復興をお祈り申しあげます。

平成 23 年 6 月 16 日　秋田市　渋谷和治

交通、医療、労働災害事故・会社再建、倒産
サラ金破産、債務整理・個人再生・相続、遺言

相談料は全て無料です

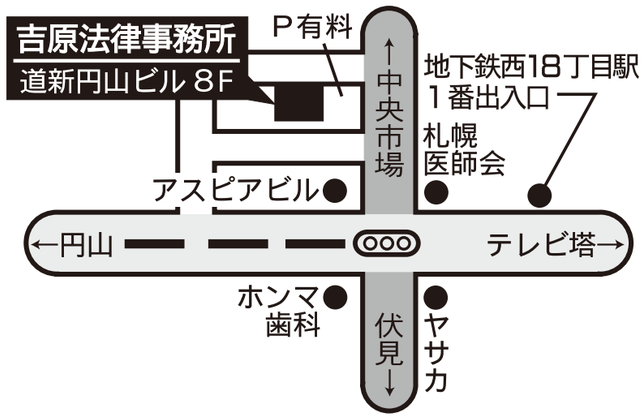
吉原法律事務所

札幌弁護士会　弁護士　吉 原 美 智 世
（昭和 48 年増殖学科卒業）

お気軽にお問い合わせ下さい

TEL 622-7963　FAX 622-8414

札幌市中央区大通西20丁目2-20（道新円山ビル８階）
交通 東西線西 18 丁目地下鉄 1 番出口
E-mail lawyer@yoshihara-lawoffice.jp



営業時間においでになれない方はご相談下さい。

親潮

第 297 号
平成 23 年度　第 1 号
OYASHIO
北水同窓会　http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp
北水同窓会誌　2011　297　No.1

特集　北水の今

日韓拠点大学交流の10年を振り返って

□幹事長挨拶　□会員の受賞　□退職者挨拶
□追悼　□寄稿　□クラス会報告　ほか

北水同窓会誌
2011 297 No.1
親潮
第 297 号
平成 23 年度　第 1 号
OYASHIO

CONTENTS

幹事長ごあいさつ …… 3
特集 北水の今
日韓拠点大学交流の10年を振り返って …… 4
会員の受賞 …… 8
秋葉 文和 氏（昭37ギ）／山口　篤 氏（平6ソ）
退職者挨拶 …… 9
後藤　晃 氏（昭45ソ）／袁　春紅 氏（平18博生命）
第91回定期総会報告 …… 10
追悼 …… 19
佐藤 敏郎 氏（昭22ギ）／小野 隆男 氏（昭50食）／久保 達郎 氏（昭16ヨ）
高木 常昭 氏（昭29ソ）／長澤 有晃 氏（昭29ソ）／谷口 和也 氏（昭43ソ）
寄稿 …… 24
菊池良兵 氏（昭22工）
クラス会報告 …… 26
小樽支部総会
著作紹介 …… 27
学位取得者 …… 30
卒業・修了者の就職先 …… 31
会員異動 …… 31
「北水同窓会東日本大震災義援金」のご報告 …… 32
会員死亡通知 …… 34
親潮投稿規定・編集後記 …… 34

お知らせ

第92回（2012年）北水同窓会 定期総会　開催案内（予告）

下記日程にて北水同窓会定期総会を開催いたします。
ぜひ、ご出席ください。（詳細は追ってお知らせいたします）

- 開催日／2012 年 6 月 30 日㈯
- 会　場／「うおまん中之島店」（予定）
  大阪市北区中之島6丁目2番27号
  中之島センタービル31階　Tel：06−6445−1977
- 総会・懇親会／15：00〜

申し込み先

- 北水同窓会大阪支部　支部長 田中 文夫（昭50食）／
  E-mail：hokusui-osaka@mail.goo.ne.jp　Fax：06-6343-3736

または ●北水同窓会事務局／ E-mail：hokusui@hotweb.or.jp　Tel：0138-42-3681

幹事長ごあいさつ

北水同窓会幹事長
高橋 是太郎（昭50食）

この度の大震災で、3名の同窓が亡くなられました。着任の挨拶に先立ち、亡くなられた気仙沼支部長の小野隆男様（昭50食）、同じく気仙沼支部の横山芳雄様（昭23教ギ）、福島県支部の佐藤敏郎様（昭22ギ）のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災により大変困難な状況に置かれた同窓の方々にも、新幹事を代表し、謹んでお見舞い申し上げます。前任の飯田幹事長の元、北水同窓会として、義援金を集めさせていただきました。義援金をお送りいただきました方々には、この場をお借り致しまして、衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、図らずも、この度私如きが飯田浩二前幹事長及び板橋豊前副幹事長より、23,24年度の幹事長を仰せつかり、過日の総会にて承認されました。昨今、リーダーシップがとわれることが多くなりましただけに、本来リーダーシップを発揮できる筈の他の優秀な諸同窓教員をさしおいて、私が新幹事長着任の依頼を受けた時は、「お戯れを」といった心境でございました。しかし考えてみますと、幹事長に相応しい優秀な同窓達は、目下大学運営やビッグプロジェクトに関わって極めて多忙な中にあり、とても時間が割けないという理由で、私にお役割が回ってきたものと認識致しております。斯様に考えますと、飯田前幹事長は北大の評議員、板橋前副幹事長は副研究院長という重責にこれまでありながらも同時に同窓会運営をこなしてこられたのですから、そのスーパーマンぶりには今さらながら驚かされます。そんなお二人に依頼されたのではさすがにお断りしきれず、「殿、それはご乱心です！」と云いつつも、最終的には謹んで新幹事長の大任をお引き受け致した次第です。よって、「新幹事長があんなやつで大丈夫なのか？」とお思いになられた方もおられることとは存じます。しかし、大変幸いなことに、この度の新及び留任幹事のメンバーは非常に優秀な教員ばかりです。従って、幹事会において合意形成さえしておけば、適切な判断をもって運営できるものと確信致しております。

当同窓会における最大の懸案は「個人情報保護法の徹底が進む中で、如何に会費の徴収率の減少を食い止めるか」です。会費の収入は現在**危機的状況にございます**。少し前までは少なくとも名簿発行年には増収になるというパターンでしたが、その傾向すらも今は失われてしまいました。大分以前より、入学したばかりの学生に働きかける試み等いろいろ工夫を致して参りましたし、若手を惹きつけることによって会員数減少に歯止めをかけるために大胆に「親潮」を刷新する努力も重ねて参りました。ネット社会に対応すべく、飯田前幹事長の元で新たに電子メールを有効に使う試みもなされております。あらゆる角度から知恵をしぼったものの、幹事会では会費増収の案がすっかり出尽くした感があり、会員数増強方策につきましては是非皆様方からアイディアをいただければと存じます。

これから2年間、新幹事メンバー共々何卒宜しくお願い申し上げます。

日韓拠点大学交流の10年を振り返って

飯田 浩二（昭51ギ・日韓拠点大学交流コーディネータ）

はじめに

北海道大学水産学部と韓国釜慶大学水産科学大学は2001年度から2010年度までの10年間、日本学術振興会（JSPS）と韓国科学財団（KRF）の支援を受けて拠点大学方式による学術交流事業を実施してきました。本事業は「水産資源変動の解明と非環境負荷・ゼロエミッション型水産業の構築」をメインテーマとして、環境、漁業、増養殖、資源利用の4つの分野で共同研究テーマを設け、両国の拠点大学を中心とする大学連合間で研究者交流、共同研究、セミナーなどを実施するものです。

これまでの本交流事業の進展を概観すると、両国拠点大学間および協力大学間のネットワーク作りに始まり、共同研究テーマの策定と研究グループの組織化、共同研究の具体化、実質化、研究者交流、学生交流など多くの事業を実施してきました。幸いにも共同研究による派遣、受入およびセミナー参加者数が開始以来順調に増加し、延べ35件の共同研究が実施され、約900名の研究者が相互訪問しました。隔年で交互開催しているセミナーや不定期開催のワークショップも昨年12月に函館で開催したセミナーを最後に合計12回実施されました。本事業を終えるにあたり、この10年間を振り返ってみたいと思います。

背景と目的

日本と韓国は古くから、日本海や東シナ海などの隣接する海から共通の魚介類を食料資源として利用しながら、養殖や水産加工などの関連産業を発展させてきました。しかし、今日、地球規模での環境変化や過剰な漁獲が近隣海域の水産資源を減少させています。特に、マイワシ、スルメイカ、スケトウダラなどの回遊性魚類は、その生息域が両国にまたがっているために、これらの資源、生態研究には両国の協力が不可欠となっています。

日韓両国が海洋から食料資源を長期的に安定して確保するためには、両国の研究者が協力して水産資源変動の解明の基となる資源量の正確な調査や再生産のメカニズム、それらを取り巻く海洋環境変化等を明らかにすることが必要です。さらに、両国の健全な養殖漁業の発展のためには、健康な魚を育てる養殖技術、老化した養殖漁場の環境改善、海洋資源の高度利用、未利用海洋生物の健康食品や医薬品への利用技術などの開発に取り組む必要があります。

限りある水産資源を無駄なく有効に、かつ、環境に負荷を与えずに利用していく非環境負荷・ゼロエミッション型水産業を構築することがこの研究のねらいです。

組織

日本側は北海道大学（水産学部）を拠点大学とし、東京海洋大学など10校が協力大学として、また、韓国側は釜慶大学（釜山市）を拠点大学とし、慶尚大学（統営市）、群山大学（群山市）、全南大学（麗水市）、済州大学（済州市）、江陵原州大学（江陵市）など5校が協力大学として参加しています。両拠点大学には事務局を置き、両国各1名のコーディネータと各4名のサブコーディネータが事業の連絡、調整に当り、両国で400名以上の研究者が参加しています。

共同研究の実施

事業開始以来、なるべく多くの研究者が参加できるよう、水産学を環境、漁業、増殖、利用の4分野でサブ研究テーマを設け、その中に共同研究グループを立ち上げることにしました。この10年間で合計35件の共同研究が実施されました。以下概要を紹介します。

1．日本海・東シナ海の海洋環境変化と水産資源変動の解明（環境分野）

魚に国境はありません。生息域が両国にまたがるマイワシ、スケトウダラ、スルメイカなどの回遊性魚類の生態と資源変動の原因を解明するとともに、沿岸海域に生息する魚類の分布や生態に関する共同研究を行っています。特にイカ類の生態と資源変動の解明に向けて、これまでに、数度のワークショップや中国を交えた国際シンポジウムを開催し、環境変化が資源変動に与える影響を議論しました。また、2003年度からは、両国の大学練習船を用いて、日本海、東シナ海の海洋環境とスルメイカの卵や幼生の分布などの再生産機構に関する共同調査を始めました。

一方、韓国およびその周辺海域の魚類相を調べるために、韓国各地の魚類標本と魚類採集の共同調査を行い、ゲンゲやウミヘビなど計10科の韓国初記録種と稀種（新種ではないが大変珍しい種）を発見しました。

2．選択的漁獲技術と資源量評価手法の開発（漁業分野）

水産資源の安定供給実現のため、幼魚や目的外の魚を獲らない漁具・漁法の開発、資源量評価のための定量採集装置や音響を用いた資源量推定技術の開発などに関する共同研究を行っています。これまでに、日韓共通の魚種であるイワシやスケトウダラなどの音響特性を、毎年日本と韓国の実験施設を用いて、共同で測定し、計量魚群探知機による資源調査に必要な魚の音響反射率を明らかにしました。また、両国の練習船を用いて、日本海や東シナ海における共同調査も始めました。さらに、環境や資源に負荷をかけない環境低負荷型漁業の実現のため、目的外の魚を獲らない選択型漁具・漁法の開発や、混獲や投棄魚の削減技術、資源管理方策などについて両国の漁業や制度の比較研究をおこなっています。

3．魚介類の品種開発、種苗生産、育成技術の開発（増養殖分野）

効率的で、かつ環境を悪化させない増養殖技術を確立するため、魚病対策、養殖漁場の環境改善、沿岸漁場の整備などについて共同研究を行っています。水産増養殖が活発になればなるほど、餌の食べ残しなどにより海洋環境が悪化します。また、それにより病気が発生し、増養殖発展の大きな制限要因となります。これまでに2回、水産生物の健康診断・健康管理に関するワークショップを開催しました。その結果、両国には多くの共通の病気があり、病原体をしっかり調査した上で、共通の健康管理の実施が必要であることが明らかになってきました。

4．未利用資源の食料、健康食品、医薬品への利用技術の開発（食品利用分野）

日本や韓国では、水産物をよく食べますが、両国ではガンや動脈硬化にかかる比率が欧米諸国に比べて低いことが知られています。これは、日本人や韓国人が水産物に含まれる各種機能性成分を多量に摂取していることが大きな要因と考えられます。そこで、1)海洋資源の機能性とその高度利用、2)日韓の食生活比較、3)食品素材の衛生化および電解水の利用の3点に着目して共同研究を行っています。これまでに、両国の水産食文化や水産物由来の機能性成分の摂取の共通性と違いについて理解することができ、世界の人々の健康増進にとって有益な情報を得ることもできました。

学術交流セミナーとワークショップ

本事業では共同セミナーやワークショップを開催し、共同研究の成果を発表し合うと共に、今後の計画に反映させるようにしています。セミナーの開催は年1回の日韓で交互開催することになり、合計10回開催しました。当初は全グループが一同に会す合同ワークショップも年1回行う計画を立てましたが、あまりに大変なので、最初の2年間おこなったあと、中止しました。ただし、研究グループごとのワークショップは不定期で多数開催されました。

これまでに開催したセミナーは、第1回が2001年9月に韓国釜慶大学校（釜山市）において「日本と韓国の食文化の特徴と水産科学の役割」をテーマに開催され、2件の基調講演、8件の特別講演、36件の一般発表があり、約150名が参加しました。基調講演では日韓の酒と発酵食品の歴史や特徴について興味深い話題提供がありました。

第2回は2002年8月に北海道大学（札幌キャンパス、函館キャンパス）において「日本海の海洋環境と海洋生態系」をテーマに2件の基調講演、7件の特別講演、33件の一般発表があり、約120名が参加しました。本セミナーでは日本海に焦点を当て、その地理や歴史的背景と物理、化学、生物的特徴を幅広く議論し、海そのものには国境も経済水域もなく、国際共同研究の重要性が強く認識されました。

第3回は2003年12月に韓国協力大学である慶尚大学校（統営市）において「沿岸域における水産資源の効率的な利用と資源管理」をテーマに行われ、2件の基調講演、7件の特別講演、35件の一般発表があり、約130名が参加しました。統営は韓国でも有数の沿岸漁業の盛んな地域で、一般市民の関心も高く、ヒラメやアワビの大規模な養殖に関する話題が印象的でした。

さて、第4回目のセミナーは2004年12月に北海道大学（札幌キャンパス）において「水産をとりまく災害と危機管理」をテーマに開催しました。水産業は海やそこに棲む生物を生産の場や対象とするため、自然界の影響を受けやすく、気象や環境の急変、赤潮、魚病の発生など、水産を取り巻く災害の予測、予防、回避のための方策を議論しました。

第5回目は2005年8月韓国群山市で「水産ゼロエミッションの現状と展望」、第6回目は2006年8月函館で「日韓の持続的水産業」、第7回目は2007年8月韓国全南大学のある光州市と麗水市で「水産海洋産業を基盤とした地域活性化」、第8回目は2008年12月函館、大沼で「共同研究の融合」、第9回目は2009年12月韓国江陵原州大学のある江稜市で「スルメイカとゼロエミッション」、そして最後の第10回目は2010年12月函館において「持続可能な水産業への提言」をテーマとするセミナーを開催しました。

セミナーには非開催国から約30名を含む約100名の研究者が参加し、組織を挙げての一大イベントとなりました。時宜を得たテーマの基に各界の著名人による基調講演、そして専門家による特別講演は本事業の推進に大きく寄与しました。2日目は大体分科別の研究発表会がもたれ、毎年3～ 40件の研究発表があり、その成果は多くの論文や書籍や特許などとなって花咲いています。

第2回セミナー参加者（2002年8月函館）

セミナーとワークショップ

回	時期	開催地	テーマ
1	2001	釜山	日本と韓国の食文化の特徴と水産科学の役割
WS	2001	函館	共同研究ワークショップ
2	2002	札幌・函館	日本海の海洋環境と海洋生態系
WS	2002	済州	共同研究ワークショップ
3	2003	晋洲・統営	沿岸域における水産資源の効率的利用と資源管理
4	2004	札幌	水産を取り巻く災害と危機管理
5	2005	群山	水産ゼロエミッションの現状と展望
6	2006	函館	日韓の持続的水産業
7	2007	光州・麗水	水産海洋産業を基盤とした地域活性化
8	2008	函館・大沼	共同研究の融合
9	2009	江陵	スルメイカとゼロエミッション
10	2010	函館	持続可能な水産業への提言

拠点大学交流の波及効果

事業開始当初は言葉や文化、習慣の違いが交流の障害になることもありましたが、交流が進むにつれて、流れがスムースになってきました。日本語を流暢に話せる韓国研究者も多いのですが、やはり一部にすぎません。まして韓国語を話せる日本の研究者は皆無です。セミナーが近づくとにわかハングル講座も開かれ、皆挨拶くらいは相手の言語でできるようになりました。韓国語と日本語の文法が非常に似ており、ハングル・漢字交じりのスライドが大変有効であることもわかりました。拠点交流事業を通して、専門の異なる学内や他大学の研究者との交流が深まったことも貴重な収穫といえます。

本事業では、毎年、セミナーで発表した論文を収録した年次報告書／プロシーディングを発行し、関係機関や研究者に配布していますが、活動状況の把握や共同研究の推進に大変役にたっています。

また、情報交換、情報発信用ホームページを開設し、連絡、調整、広報に利用していますが、ホームページを見た一般からの問い合わせも多く、情報発信手段として大変有効であることが分かりました。

拠点大学交流をきっかけに本学と韓国内のすべての水産系大学と学術交流協定を締結し、それに伴って多くの研究者交流や学生交流が行われるようになりました。本事業による研究者交流は双方を合わせると900名近くになります。また、特に韓国から北大水産学部への留学生数が飛躍的に増加し、この10年間で受け入れた韓国留学生は長期短期合わせて150名にもなります。この中で博士の学位を取得して帰国した学生が17名もいることは特筆すべきことです。

年次報告書とプロシーディング

研究者交流・学生交流・学術交流の推移

年度	研究者		正規		非正規・交換		博士修士	短期（1ヶ月）		
	派遣	受入	受入	派遣	受入	派遣		NURI	派遣	受入
2001	48	26	3		1		1			
2002	47	38	2		2					
2003	63	32	3		1		1			
2004	40	54	2		4		2			
2005	60	39	3		5		1	18		
2006	22	63	3		5	1	3	20		
2007	38	51	4		4		3	20		
2008	30	52	2		5		2	20	3	4
2009	43	50	4		3	1	4		5	2
2010	29	52	2		3					
計	420	457	28	0	33	2	17	78	8	6

学術交流協定
釜慶大学校（2000）・済州大学（2002）・慶尚大学校（2003）・麗水大学校（2004）
群山大学校（2005）・江陵大学校（2007）・全南大学校（2007）・江陵原州大学校（2009）
練習船交流
北星丸（2001,釜山）・おしょろ丸（2002,釜山）・伽耶号（2003,函館）・おしょろ丸（2009,麗水）

おわりに

本事業は10年間という大規模かつ長期プログラムであり、中間評価で予算を減額されるなど、難しい局面もありましたが、関係者のご努力とご協力で無事、終えることができました。私は昨年函館で行われた最終セミナーで、異なる登山道から登り始めた者たちが、今山頂で合流し、美しい函館の夜景を眺めているすがすがしい気持ちです、とあいさつした後、感無量で胸に熱いものが込み上げてきました。この10年間、ご苦労された関係の諸先生、事務部職員の皆さん、そして歴代の学部長先生方々に深くお礼申し上げます。

最後になりましたが、本交流事業のご支援を頂いた、日本学術振興会ならびに韓国科学財団に感謝申し上げ、日韓拠点大学交流の紹介を終わります。

会員の受賞

CONGRATULATIONS ON WINNING

秋葉 文和 氏（昭37ギ）
平成22年秋　旭日双光章受章
北水同窓会青森支部

社団法人青森県消防設備保安協会副会長、秋葉文和氏は長年にわたる消防設備業界の発展等に貢献された功績により、平成22年秋の叙勲において旭日双光章を受章されました。

秋葉氏は昭和37年に漁業学科を卒業された後、北日本管工業株式会社（青森県青森市）に入社以来、消防用設備等の工事、保守および管工事等の業務に従事し、技術・技能の研鑽に努めるとともに、業界のリーダーとして、その豊富な知識と経験、強い責任感により、事業者の健全な経営と従事者の資質の向上等に努めてこられました。

また、平成16年6月の消防法改正による住宅への火災警報器設置義務化の際には、その重要性を深く認識し、県内消防機関とタイアップした警報器の配布活動に取り組むとともに、地域住民への火災予防思想の普及啓発に取り組んでこられました。

今回の受賞は秋葉氏本人の栄誉のみならず、同窓一同にとっても誠に喜ばしいことであり、秋葉氏の今後益々のご活躍をご期待いたします。

なお、秋葉氏は長年の管工事業での功績により、平成16年秋に黄綬褒章を受賞しておられます。

CONGRATULATIONS ON WINNING

山口　篤 氏（平6ゾ）
平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞
今井 一郎（特別会員）

山口 篤准教授（平6ゾ）は「海洋表層から深層に及ぶプランクトン群集構造の研究」が評価され、平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞されました。本賞は、様々な分野において顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者が対象であり、平成17年度より創設され今年度は全国で計82名が受賞しました。受賞の研究内容の概要を以下に紹介します。

海洋生態系において、プランクトンは物質循環の担い手として極めて重要な役割を演じています。プランクトンは海洋で浮遊生活を行う生物群の総称であり、小はフェムトプランクトンであるウイルス、ピコサイズの従属栄養細菌や単細胞藍藻類、ナノ、ミクロサイズの真核藻類（いわゆる植物プランクトン）、微小動物プランクトン、甲殻類を中心とした動物プランクトン、そして最大のものは重量200kg以上に達するエチゼンクラゲまで、多種多様な生物群が包含されます。プランクトンの研究は海洋生態系を理解する基本として重要でありますが、海洋のプランクトン生物の全構成生物を海域で把握しようとした研究は、瀬戸内海において1980年代に多くの科学者が参画して実施された「海洋生物資源の生産能力と海洋環境に関する研究」（科学技術庁）以外にはまず見当たりません。特に外洋域の深海にまで及ぶプランクトンの群集構造解明に関する研究は例がなく、大変貴重といえます。

山口准教授は、西部北太平洋阿寒帯域から亜熱帯域の表層から深海底直上（最深5,800m）まで、全プランクトン生物の定量採集を行いました。そして、プランクトンの主要分類群とサイズ組成が亜寒帯域と亜熱帯域で大きく異なることを示しました。亜寒帯域と亜熱帯域における主要分類群とサイズ組成の相違は、基礎生産者である植物プランクトンのサイズ組成の違いに起因しており、それは表層の水温躍層の発達と栄養塩濃度の海域差を反映したものであることを見出しました。また、亜寒帯から亜熱帯までの表層から深海に及ぶ全プランクトン生物量を定量評価した結果、深度の増加に伴う生物量の減少率は生物分類群によって異なり、細菌＜単細胞動物＜植物＜多細胞動物の順に大きいことを明らかにしました。このような各分類群における生物量減少率の違いは、各々の栄養生態の様式の結果であることを示しました。さらに、亜寒帯域における生物ポンプの主要駆動分類群であるカイアシ類の生態学的研究により、同属の種間で鉛直分布を変えて棲み分けしていること、多くの中・深層性カイアシ類が若い発育段階では深い層に分布し表層性カイアシ類と逆の発育に伴う鉛直移動を行うことなどを解明しました。

以上、山口准教授の研究成果は生物海洋学的への貢献のみならず、温暖化などの地球環境問題においても重要なものと評価できます。今回の受賞は、研究室一同ならびに卒業生にとって誠に喜ばしく、今後も活躍が大いに期待されます。

退職者挨拶

北大水産学部を去るにあたって：深い感謝と今後の想い
後藤　晃（昭45ゾ）

「定年退職？そんなんいつの話や」と常にのんきに言っていた私にもその日がやって来た。泣いても笑っても、2011年（平成23年）3月31日がその日であった。大学院生活を7年間も過ごして博士の学位を得たばかりの1977年（昭和52年）7月に北大水産学部増殖学科発生学・遺伝学講座の助手の職に就くことができた時から数えて、およそ34年間を経ている。そうだから、「辞めて当たり前や」と言われれば、その通りであり、返す言葉もない。

大学院終了後の30年余の間、北海道大学水産学部に在職し、教育・研究の仕事を私なりに全うすることが出来ましたことに対して、まず同学部の先輩・同僚の皆様や関係者の皆様に深く、深く感謝の意を表します。

私は、この大学院での研究期間を併せておよそ40年間にわたって、北海道を中心とした北日本、および東ユーラシアとアラスカにおける川と湖に生息する淡水魚類の分子系統、生物地理、生態、行動などの調査・研究を一貫して行い、また学部と大学院において講義・実験を通して、あるいは卒論・修論・博論の研究指導を通して、多くの学生・院生の皆さんと出会えたことに喜びと感謝の気持ちで一杯です。

21世紀は、人類にとって「環境保全と共生の時代」と言われています。この世紀に生を続けることができた一人として、退職後の残された日々を、その人類の共通テーマの達成に少しでも役立つ生き方を続けて行きたいと念じております。

終わりに、これまでの水産学部における学生生活と教員生活を送ってきた過程でお世話になり、またご支援とご協力をいただきました北水同窓会の皆様方に深く感謝を申し上げるとともに、皆様の益々のご健勝とご発展を祈念して、退職のご挨拶とさせていただきます。

日本の水産学を中国に伝える架け橋としての夢を実現するために
袁　春紅（平18博生命）

本年3月末日をもって北海道大学を退職し、中国に帰国する予定にしていましたが、上海海洋大学に在籍しながら、4月1日より鹿児島大学水産学部で准教授として5年間仕事をすることになりました。2002年10月に北大大学院に入学して以来、北海道大学水産学部並びに北水同窓会の皆様には大変お世話になりました。

8年間を振り返ってみると、様々な場面が思いおこされます。初めての雪国での楽しい留学生生活（就学）、国際交流活動（就職）、また娘の出産などです。函館は私の第二の故郷と思っています。この間に私が行った研究は中国淡水魚の筋肉たんぱく質の熱安定性の季節変化、種による特性の違いなどの基礎的なものですが、これからの淡水魚の利用加工を考えるときに貴重な知見となると考えております。この知見は、これは中国のみならず、東南アジア、アフリカの国々でも応用できると考えております。このような楽しい、そして、充実した研究生活を送れたことは、私の博士課程の指導教官である今野先生を初め、北水同窓会関係各位のご指導、ご理解、ご支援、そして、厚情の賜物と深く感謝を申し上げます。

この8年の間に、水産学部の留学生は20名程から60名余りに急増しました。国際交流の活性化を実感することができました。北大で学んだ知識と身に付けた国際涵養はきっと留学生にとって、一生を決める大切なものになると思います。そして、感謝の気持ちで、日本の水産学を母国に伝える架け橋として働いてくれることを期待します。私自身も、これからは、北大で学んだことを活かして、グローバルな視点を持ち、一生学ぶ覚悟を持って、継続的な努力をし、そして、国際社会に貢献できるように頑張りたいと決意しています。これからも同じ魚食文化を持つ中国で、水産資源の利用加工に関する研究を行い、微力ながらも自分の研究分野（水産食品化学、水産物の利用と加工）からの地域貢献と国際貢献を教育・研究の両面から目指して頑張りたいと思います。

北大を離れましても、北大のOBの一人として、これから色々な形で北大に関わっていきたいと思います。
最後に、北水同窓会の皆様の益々のご健勝とご活躍を、そして水産学部のご発展をお祈り申し上げ、退職の挨拶といたします。

第91回 北水同窓会定期総会報告

■開催日時：平成23年5月27日
■会　　場：ライオン銀座 7丁目店 クラシックホール

第91回北水同窓会定期総会は東京支部の方々のご準備のもと、本学の佐伯 浩総長を来賓としてお迎えし170名を超す同窓生が集まり、趣のある東京銀座の会場にて開催されました。総会は東京支部長の鉢木和三氏（昭38ゾ）が議長を務め、「平成22年度事業経過報告および会計決算報告」、「平成23年度事業計画および予算案報告」が諮られ承認されました。その中でも会計部からの予算案では、会費納入会員数が減少傾向のままで推移すると、現在と同レベルの同窓会活動を維持するために、特別会計を切り崩して赤字を補填する必要があることが説明されました。「その他」としては飯田浩二本部幹事長（昭51ギ）より、東日本大震災で被災された同窓生の情報と先行して進められている「北水同窓会東日本大震災義援金」についての説明と賛同の呼びかけがなされました。

総会終了後、第二部として東京支部総会と懇親会が浜谷一郎東京支部幹事長（昭51化）の司会進行で行なわれました。開催に先立ち、この1年間にお亡くなりになった同窓生と東日本大震災でお亡くなりになった方々のご冥福を祈り、黙祷が捧げられました。東京支部総会は手短に終えられ、懇親会は鉢木和三東京支部長、横山 清会長（昭35エ）、名誉会長の嵯峨直恆研究院長（特）の順で挨拶がありました。さらに、来賓としてご出席いただいた佐伯 浩総長からも挨拶と北大全体の近況の説明をいただきました。その後、樋口達夫東京支部副支部長（昭50食）から乾杯のご発声をいただき懇談が始まりました。

当日受付の参加者も加わり、会場の収容人数を超えるほどの盛況となり、臨時に別室の第二会場も設けられるほどの賑わいとなりました。宴たけなわのなか、会員活動紹介として、横山信一議員（昭58ギ）の挨拶、次期定期総会の開催地に決定した大阪府支部長の田中文夫氏（昭50食）による次期定期総会の案内、そして新宅優一氏（平5ギ）による函館を舞台とした映画「海炭市叙景」の紹介などがなされました。終盤には元応援団員の面々が壇上に上がり、老いも若きも円陣を組み、岩井弘光氏（昭57ギ）の前口上により「都ぞ弥生」を全員で斉唱しました。最後は、細見典男東京支部副支部長（昭48食）の中締めで終宴となりました。

本総会にお集りいただいた皆様と開催準備・当日運営にご尽力いただいた東京支部の皆様へ厚くお礼申し上げます。

「庶務部幹事・工藤秀明（平3ゾ）」

式次第

第91回定期総会

- 開会の辞 ……本部副幹事長　板橋　豊（昭50化）
- 議長選出 ……東京支部長　鉢木和三（昭38ゾ）
- 平成22年度事業経過報告・会計決算報告
- 平成23年度事業計画・予算案報告
- その他　「北水同窓会東日本大震災義援金」について
- 閉会の辞 ……本部副幹事長　板橋　豊（昭50化）

東京支部総会
懇親会

司会進行　東京支部幹事長　浜谷一郎（昭51化）

- 黙祷
- 東京支部長挨拶 ……鉢木和三（昭38ゾ）
- 会長挨拶 ……横山　清（昭35エ）
- 名誉会長挨拶 ……研究院長　嵯峨直恆（特　別）
- 来賓挨拶 ……総長　佐伯　浩
- 乾杯 ……東京支部副支部長　樋口達夫（昭50食）
- 同窓会員スピーチ
- 都ぞ弥生斉唱 ……前口上：岩井弘光（昭57ギ）
- 中締め ……東京支部副支部長　細見典男（昭48食）

会長挨拶

来賓挨拶

東京支部長挨拶

◀都ぞ弥生斉唱

総会前控室

第91回 北水同窓会定期総会報告

■出席者

〈来賓〉
佐伯　浩
嵯峨　直恆（特別）

〈東京〉
神山　茂郎（昭19セ）
田村　龍彦（昭23ギ）
生田　博司（昭23セ）
臼田　正臣（昭23セ）
荒木　道雄（昭24セ）
宮川　芳明（昭25セ）
今井　忠（昭26セ）
遠藤　清美（昭28セ）
小山　光（昭29セ）
小泉　守（昭32セ）
吉村　正昭（昭32セ）
漆畑　信昭（昭34エ）
細萱　安彦（昭35エ）
池田　清哉（昭36エ）
浅倉　健治（昭36セ）
石川　光男（昭36セ）
鈴木　賢一（昭36セ）
角田　靖雄（昭36セ）
新田　實（昭36セ）
西川　雄造（昭36セ）
山田　俊夫（昭36セ）
阿部　将（昭37セ）
中田　邦雄（昭37セ）
苗村　隆（昭38ギ）
鉢木　和三（昭38ゾ）
遠山　明（昭39ギ）
千葉　茂春（昭39セ）
塚崎　清司（昭39セ）
関根　忠雄（昭39ゾ）
武部　忠司（昭40セ）
畦地　清信（昭40ゾ）
廣瀬　靖則（昭40ゾ）
真嶋　俊平（昭41ギ）
松尾　英彦（昭41ギ）
鶴本多次郎（昭41エ）
野村　泰造（昭41エ）
下村　政雄（昭41ゾ）
青木　秀昭（昭42ゾ）
横堀　一男（昭43ギ）
軽部　巧（昭43エ）
熊谷　克彦（昭43食）
横野　晴雄（昭44ギ）
藤井　真一（昭44エ）
林　茂（昭45食）
守下　順雄（昭45食）
久保光太郎（昭46ギ）
細見　典男（昭48食）
森田　昭博（昭48食）
上居　隆（昭49食）
吉田　猛（昭50ギ）
樋口　達夫（昭50食）
志村　健介（昭50ゾ）
品治　二郎（昭50ゾ）
菅原　謙二（昭51ギ）
吉田　和彦（昭51ギ）
渡辺　好一（昭51ギ）
伊藤　隆宏（昭51食）
田中　章夫（昭51化）
浜谷　一郎（昭51化）
安田　弘義（昭52ギ）
藤田　寿（昭53ギ）
石田　浩平（昭54食）
荒木　隆夫（昭54化）
白井　暁（昭54ゾ）
辻　信之（昭55ギ）
畠山　義彦（昭55食）
片岡　正美（昭55化）
宮崎　洋一（昭55化）
小林　次郎（昭55ゾ）
新川　孝一（昭55ゾ）
飯塚　正（昭56ギ）
岩井　弘光（昭57ギ）
西巻　公路（昭57ギ）
藤井　淑生（昭57ギ）
柳沢　洋司（昭57ギ）
神谷　慎一（昭57食）
鈴木　一司（昭57食）
菊地　淳（昭57化）
菊池　聰（昭58ギ）
横山　信一（昭58ギ）
天野真理子（昭59ギ）
杉村　哲（昭59ギ）
橋本　浩典（昭59ギ）
江木　衷（昭59食）
廣瀬　裕（昭59食）
牛越　雅（昭59化）
大山　嘉則（昭61ギ）
小泉　玲（昭61ギ）
上本　浩之（昭61ギ）
森井　茂夫（昭61化）
前田　竜郎（昭62化）
河村　卓（平元ギ）
宇野　秀樹（平元食）
大條　雄二（平3食）
釜谷　明（平3食）
三浦　仁（平3食）
杉原　伸郎（平3ゾ）
山田　正克（平4ギ）
新宅　優一（平5ギ）
松本　偉（平5ギ）
齋藤　一繁（平5食）
樋口　智之（平6ギ）
笹原　敏明（平7ギ）
小杉　哲也（平7食）
山野寺健一（平7食）
柴田　達人（平8食）
井上　知明（平9ギ）
久保田　真（平9ギ）
倉地　宏樹（平9ギ）
森　隆史（平9食）
今村　浩二（平10食）
林　直輝（平10食）
福原　庸介（平11生）
金子　昌則（平11資）
道津　大輔（平11資）
岸本　慎弥（平12海）
高橋　信之（平12海）
岡元　泰子（平12資）
椎谷　美佳（平12資）
藤本　章人（平12資）
志野　武司（平13生）
塩田　康朝（平13資）
野間　葉子（平13資）
鈴木　賢一（平13資）
高橋　実（平13資）
中内　崇善（平13資）
高木　習輔（平14シ）
関口　督人（平15生）
浅見　耕多（平15資）
白石　聡昭（平16シ）
辰巳　智香（平16資）
中林　裕輔（平16資）
松倉　広平（平16資）
阿部　友彦（平17シ）
松浦　哲平（平17生）
香川　吉央（平17資）
高橋　泉（平17資）
三浦　大志（平17資）
鷲尾　健一（平17資）
石動　郁恵（平18資）
関根　慶彦（平18資）
田宮　史恵（平18資）
安藤　素子（平19資）
島元　章宏（平19資）
渕澤　育史（平19資）
二宮　正光（平20生）
鈴木　和也（平20資）
柴　龍太郎（平22海）

〈他県〉
島中　貞夫（昭32ギ）
長沼　昭夫（昭47ギ）
風無　成一（昭40ギ）
田中　文夫（昭50食）

〈北水同窓会本部〉
横山　清（昭35エ）
飯田　浩二（昭51ギ）
板橋　豊（昭50化）
吉水　守（昭47食）
荒井　克俊（昭51ゾ）
大西　広二（平元ギ）
今村　央（昭63ゾ）
河合　俊郎（平12生）
工藤　秀明（平3ゾ）

■総会次第

1．開会の辞　副幹事長　板橋　豊（昭50化）

2．議長選出

3．議案第1号
平成21年度事業経過報告および会計決算報告

(1) 一般経過報告
幹事長　飯田　浩二（昭51ギ）
(2) 庶務部報告（資料1）
庶務部　工藤　秀明（平３ゾ）
(3) 編集部報告（資料2）
編集部代理　河合　俊郎（平12生）
(4) 組織部報告（資料3）
組織部　大西　広二（平元ギ）
(5) 会計部報告（資料4）
会計部　今村　央（昭63ゾ）
(6) 会計監査報告
監　事　吉水　守（昭47食）

4．議案第2号
平成23年度事業計画および予算案
(1) 平成23年度役員改選案（資料5）
庶務部　工藤　秀明（平３ゾ）
(2) 第92回（平成23年度）定期総会開催地（大阪）について
幹事長　飯田　浩二（昭51ギ）
(3) 平成22年度予算案
1.会計部予算案（資料6）
会計部　今村　央（昭63ゾ）
2.編集部予算案（資料7）
編集部代理　河合　俊郎（平12生）
3.組織部予算案（資料8）
組織部　大西　広二（平元ギ）

5．その他
「北水同窓会東日本大震災義援金」について

6．閉会の辞
副幹事長　板橋　豊（昭50化）

■平成22年度 庶務部報告（資料1）

1）新入会員数

水産海洋科学科	２名
海洋生物生産科学科	１名
海洋生産システム学科	６名
海洋生物資源化学科	０名
海洋生物科学科	５８名
増殖生命科学科	５４名
海洋資源科学科	５１名
資源機能化学科	５５名
大学院（他大学、他学部出身者）	
修　士	７名
博　士	９名
合　計	２４３名

2）本年度物故者（平成 22 年度親潮掲載分）

正・準会員	６５名
特別会員	２名
合　計	６７名

3）会員現在数（3月15日現在）

正・準会員総数	１４,０１１名
特別会員数	５９名
物故正・準会員数	２,７３６名
名誉会員数	２名
正・準会員現在数	１１,２７５名
（内準会員数）	（２０名）
会員数合計	１１,３４６名

4）新入会員を含めた会員現在数（3月15日現在）
合　計　１１,５８９名

第91回 北水同窓会定期総会報告

■平成22年度　編集部報告（親潮発行）（資料２）

	号数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
予算	295号	平22年8月末	本誌　32頁 （内カラー６頁）	8,400	882,000	※1
	296号	平23年2月末	本誌　32頁 （内カラー６頁）	8,400	882,000	※1
	合計		64	16,800	1,764,000	
決算	295号	平22年9月29日	本誌　32頁 （内カラー７頁）	8,500	975,502	※1
	296号	平23年3月14日	本誌カラー　32頁 （内カラー９頁）	8,500	975,502	※1
	合計		64	17,000	1,951,004	

※1　印刷会社：㈲三和印刷
印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む

■平成22年度　組織部報告（名簿会計）（資料３）

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金 一般会計より繰入 預金利息	1,733,270 700,000	1,733,270 700,000 816	名簿積立金
	合計	2,433,270	2,434,086	
支出	次年度繰越金	2,433,270	2,434,086	
	合計	2,433,270	2,434,086	

（繰越金の内訳　銀行預金　2,434,086円）

■平成22年度　会計部報告（資料４）

１）平成22年度　一般会計決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金 会費 親潮広告料 雑収入	2,452,479 9,200,000 240,000 100,000	2,452,479 6,626,000 220,000 136,024	1,658名
	合計	11,992,479	9,434,503	
支出	親潮印刷費	1,764,000	1,951,004	（資料２）
	通信・運搬費	1,500,000	1,304,662	親潮発送費 2回分含む
	総会旅費	600,000	600,000	
	組織強化費	1,000,000	655,900	
	備品費	50,000	0	
	消耗品費	300,000	258,578	
	会議費	50,000	50,000	
	振替手数料	200,000	123,400	
	事務嘱託費	2,200,000	2,204,389	
	傭人費	150,000	115,000	
	ＨＰ維持費	240,000	240,000	
	雑費	30,000	5,478	
	ＯＡ機器整備費	100,000	100,000	積立
	名簿会計へ	700,000	700,000	（資料３）
	予備費	3,108,479	0	
	次年度繰越金		1,126,092	
	合計	11,992,479	9,434,503	

収支差引額（平成23年度に繰越）
1,126,092円（繰越金の内訳：
銀行預金　1,106,023円、現金 20,069円）

２）平成22年度　ＯＡ機器整備費（積立）決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金 一般会計より積立 預金利息	124,063 100,000	124,063 100,000 18	
	合計	224,063	224,081	
支出	次年度繰越金	224,063	224,081	
	合計	224,063	224,081	

（繰越金の内訳：ゆうちょ銀行 224,081円）

３）平成22年度　特別会計決算報告

	項目	予算額	決算額
収入	前年度繰越金 ゆうちょ銀行利息 定期預金(マリンバンク)利息	21,204,910	21,204,910 35 26,644
	合計	21,204,910	21,231,589
支出	次年度繰越金	21,204,910	21,231,589
	合計	21,204,910	21,231,589

○平成22年度　特別会計資産内容

項目	資産額
郵便定額貯金１口 ゆうちょ銀行預金 銀行定期預金 （マリンバンク）２口	7,204,000 90,074 13,937,515
合計	21,231,589

第91回 北水同窓会定期総会報告

■会計監査報告

北水同窓会の平成２２年度における会計監査を実施した結果を下記のとおり報告致します。

記

１．監査対象期間　　自　平成２２年３月１６日
　　至　平成２３年３月１５日

２．出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。

３．現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。

以上

平成２３年３月２２日　監事　石　水　寸

監事　増　田　宣　泰

■平成23年度　役員改選案

（資料５）［○は新任］

会　長
横　山　　清（昭35エ）

名誉会長
○嵯　峨　直　恆（特別）

副会長
前　田　辰　昭（昭26エ）
羽田野　六　男（〃31セ）
鈴　木　賢　一（〃36セ）
吉　野　生　壮（〃37ゾ）

相談役
遠　藤　信　二（〃13ヨ）
宮　原　九　一（〃14ギ）

代表理事
○阿　部　周　一（〃46ゾ）

学内理事
原　　彰　彦（〃46ゾ）
目　黒　敏　美（〃47ギ）
帰　山　雅　秀（〃48ゾ）
桜　井　泰　憲（〃48ゾ）
今　野　久仁彦（昭49食）
山　口　秀　一（〃49ギ）
高　橋　是太郎（〃50食）
板　橋　　豊（〃50化）
齊　藤　誠　一（〃50ギ）
門　谷　　茂（〃50化）
飯　田　浩　二（〃51ギ）
平　石　智　徳（〃51ギ）
荒　井　克　俊（〃51ゾ）
矢　部　　衛（〃51ゾ）
中　谷　敏　邦（〃52ギ）
梶　原　善　之（〃53ギ）
清　水　　晋（〃53ギ）
蛇　沼　俊　二（〃53ギ）
宮　澤　晴　彦（〃53ギ）
山　下　成　治（〃54ギ）
尾　島　孝　男（〃54化）
木　村　暢　夫（〃55ギ）
川　合　祐　史（昭55食）
足　立　伸　次（〃55ゾ）
安　井　　肇（〃55ゾ）
山　羽　悦　郎（〃55ゾ）
工　藤　　勲（〃57化）
関　　秀　司（〃57化）
高　木　省　吾（〃58ギ）
都　木　靖　彰（〃59ゾ）
○岸　村　栄　毅（〃60化）
○宗　原　弘　幸（〃61修ギ）

監　事
吉　水　　守（〃47食）
増　田　宣　泰（〃51化）

学外理事
高　野　洋　蔵（〃24セ）
長　澤　正　徳（〃24セ）
木　村　順　治（〃26ギ）
山　内　彬　一（〃26ギ）
中　村　哲　也（〃28セ）
寺　地　　潔（〃28ゾ）
大　島　栄　一（〃30エ）
富　田　幸　二（〃30セ）
服　部　保次郎（〃31エ）
箕　田　　嵩（〃31ゾ）
高　野　和　則（〃32ゾ）
島　崎　健　二（〃33エ）
高　島　　優（〃33エ）
山　崎　文　雄（〃33ゾ）
菊　地　英　樹（〃34エ）
米　田　義　昭（〃34セ）
齊　藤　勝　男（〃34ゾ）
梨　本　勝　昭（〃36ギ）
小　祝　良　介（〃36エ）
大　割　　了（〃37ギ）
繪　面　良　男（〃37セ）
河　村　章　人（〃37ゾ）
古　井　恒　弘（〃37ゾ）
麦　谷　泰　雄（〃37ゾ）
安　間　　元（〃38エ）
西　田　清　義（〃38セ）
天下井　　清（〃39エ）
林　　賢　治（〃39セ）
菅　野　泰　次（昭39ゾ）
小　越　征　夫（〃40エ）
米　田　国三郎（〃40エ）
木　村　　昇（〃40セ）
猪　上　徳　雄（〃41セ）
上　平　幸　好（〃41ゾ）
岸　本　富　男（〃42ギ）
山　本　勝太郎（〃42ギ）
眞　木　序　夫（〃42エ）
清　水　幹　博（〃42ゾ）
蔵　多　一　哉（〃43化）
池　田　　勉（〃43ゾ）
仲　谷　一　宏（〃43ゾ）
廣　吉　勝　治（〃44ギ）
高　橋　豊　美（〃44エ）
工　藤　昭　彦（〃44ゾ）
志　賀　直　信（〃44ゾ）
山　内　晧　平（〃44ゾ）
伊　藤　悦　郎（〃45ギ）
三　浦　汀　介（〃45ギ）
三佐川　　稔（〃45ギ）
簗　田　　満（〃45化）
○後　藤　　晃（〃45ゾ）
今　井　信　幸（〃47ギ）
中　林　重　雄（〃47ギ）
○目　黒　敏　美（〃47ギ）
近　江　政　斗（〃47食）
陸　田　　彰（〃47化）
黒　瀬　道　則（〃47ゾ）
土　谷　俊　一（〃48ギ）
吉　田　悟　郎（〃48ギ）
坂　本　幸　造（〃48食）
吉　田　正　人（〃48ゾ）
二　瓶　幹　雄（〃50食）
上　戸　慶　一（〃50化）
長谷川　栄　治（〃52食）
上　野　孝　雄（〃53ギ）
上　野　久仁夫（〃53化）
備　前　　悟（〃53化）
村　松　裕　史（〃54食）
宮　岡　秀　昌（〃55ゾ）
広　崎　淳　一（〃55ギ）
正　木　悦　郎（昭55ギ）
西　川　正　一（〃56ギ）
種　田　貴　司（〃56食）
野　崎　雅　敏（〃56ゾ）
藤　田　公　美（〃57ギ）
小　林　良　一（〃57食）
佐　藤　友　則（〃57食）
嶋　田　隆　司（〃57化）

学外幹事
阿　部　純　也（〃58ギ）
横　山　信　一（〃58ギ）
佐　藤　直　孝（〃58食）
小　野　　浩（〃59食）
吉　岡　武　也（〃60食）
吉　田　秀　嗣（〃60ゾ）
今　野　　伸（〃62食）
宮　﨑　永　司（平１ギ）
柳　町　琢　也（〃４化）

地方理事
（稚内）風　無　成　一（昭41ギ）
（留萌）祐　川　正　幸（〃48ゾ）
（紋別）片　岡　　靖（〃42ゾ）
（網走）金　澤　　克（〃40セ）
（根室）望　月　英　明（〃30セ）
（厚岸）○鈴　木　一　幸（〃60ギ）
（釧路）清　水　富士雄（〃36エ）
（旭川）斉　藤　隆　司（〃46化）
（十勝）佐　藤　　裕（〃24セ）
（苫小牧）木　村　　実（〃48食）
（室蘭）矢　島　清　孝（〃45食）
（札幌）林　　和　明（〃38ゾ）
（札幌）眞　田　篤　弘（〃43化）
（札幌）村　井　　茂（〃45ゾ）
（小樽）小　田　一　夫（〃45ギ）
（余市）川　村　一　廣（〃33ゾ）
（青森）佐　藤　立　治（〃36エ）
（八戸）武　田　恵　二（〃26ゾ）
（秋田）赤　間　健太郎（〃41ゾ）
（村山）山　田　彰　一（〃40ゾ）
（庄内）村　井　太　郎（〃50ギ）
（盛岡）奥　山　勇　作（〃54ゾ）
（宮古）和　田　秀　雄（昭60ギ）
（釜石）高　橋　　禎（〃56ゾ）
（仙台）渡　辺　　宏（〃39セ）
（石巻）小　池　幾　世（〃53ギ）
（気仙沼）千　葉　敏　朗（〃46ゾ）
（福島）高　越　哲　男（〃44ゾ）
（茨城）原　田　和　民（〃24教ゾ）
（栃木）大　友　時　夫（〃44ゾ）
（埼玉）吉　川　晴　二（〃41ゾ）
（館山）安　田　健　治（〃56食）
（銚子）山　口　隆　夫（〃53化）
（千葉）佐　藤　隆　義（〃40ゾ）
（東京）鉢　木　和　三（〃38ゾ）
（東京）菊　本　　肇（〃40ギ）
（神奈川）金　庭　正　樹（〃57化）
（鳥取）山　本　栄　一（〃52ゾ）
（静岡）三ツ野　勝　廣（〃44食）
（長野）小野里　　坦（〃37ゾ）
（新潟）守　屋　義　秀（〃36セ）
（富山）宮　崎　　護（〃41セ）
（石川）未定
（福井）○国　田　　裕（〃45食）
（愛知）藤　井　洋　治（〃42ギ）
（京都）小　林　正　昌（〃39ゾ）
（滋賀）澤　田　宣　雄（〃57ゾ）
（三重）谷　村　　篤（〃50ゾ）
（大阪）○田　中　文　夫（〃50食）
（兵庫）岡　村　武　司（〃53ギ）
（和歌山）小　橋　保　智（〃32ギ）
（鳥取）山　本　栄　一（〃52ゾ）
（岡山）鈴　木　伸　一（〃50ギ）
（広島）森　岡　泰　啓（〃38ゾ）
（島根）中　村　幹　雄（〃42ゾ）
（関門）○萬　年　信　一（〃37エ）
（香川）黒　川　康　彦（〃18ギ）
（愛媛）桑　原　彰　三（〃53ゾ）
（徳島）小　黒　美　樹（〃23セ）
（高知）蒲　原　幸　男（〃49ギ）
（福岡）石　尾　眞　弥（〃19セ）
（佐賀）花　城　勝　也（〃26ギ）
（長崎）阿　部　茂　夫（〃22ギ）
（熊本）安　田　広　光（〃58食）
（大分）武　田　晴　美（昭56ギ）
（宮崎）山　崎　正　治（〃24エ）
（鹿児島）川　村　軍　蔵（〃42エ）
（沖縄）西　銘　史　則（〃54修ギ）
（北米地区連絡所・北米エルム会内）
真　板　洋　輔（昭32エ）

平成23年度　本部常任幹事
直通電話番号
市外局番（0138）

幹事長
○高橋是太郎（昭50食）　40-5560

副幹事長
○平石　智徳（昭51ギ）　40-5586

庶務部
荒井　克俊（昭51ゾ）　40-5535
○向井　　徹（昭61ギ）　40-8853
河合　俊郎（平12生）　40-5553

会計部
○木村　暢夫（昭55ギ）　40-8846
今村　　央（昭63ゾ）　40-5539
○東藤　　孝（平２ゾ）　40-5615

編集部
今野久仁彦（昭49食）　40-5567
岸村　栄毅（昭60化）　40-5519
○細川　雅史（平２食）　40-5530

組織部
○齊藤　誠一（昭50ギ）　40-8843
丸山　英男（平元化）　40-8813
○山口　　篤（平６ゾ）　40-5543

事務局
吉田　秀美　　42-3681

第91回 北水同窓会定期総会報告

■平成23年度　会計部予算案（資料６）

1）平成22年度　一般会計決算報告

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,126,092	2,300名見込み
	会費	8,000,000	
	親潮広告料	220,000	
	雑収入	100,000	
	合計	9,446,092	
支出	親潮印刷費	2,000,000	（資料7）
	通信・運搬費	1,400,000	親潮発送費（2回分）含む
	総会旅費	800,000	大阪開催
	組織強化費	800,000	※
	備品費	0	
	消耗品費	250,000	
	会議費	0	
	振替手数料	150,000	
	事務嘱託費	2,200,000	
	傭人費	150,000	
	ＨＰ維持費	240,000	@20,000円×12回
	雑費	20,000	
	OA機器整備費	100,000	積立
	名簿会計へ	1,200,000	（資料8）
	予備費	136,092	
	合計	9,446,092	

※総会補助30万円、本部役員会補助12万円、卒業祝賀会補助10万円を含む。

2）平成23年度　OA機器整備費（積立）予算案

	項目	予算額
収入	前年度繰越金	224,081
	一般会計より積立	100,000
	合計	324,081
支出	次年度繰越金	324,081
	合計	324,081

3）平成23年度　特別会計予算案

	項目	予算額
収入	前年度繰越金	21,231,589
	合計	21,231,589
支出	次年度繰越金	21,231,589
	合計	21,231,589

■平成23年度　編集部予算案

（親潮発行）（資料７）

号数	発行年月日（締切り）	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
297号	平23年8月末（7月10日）	本誌　32頁（内カラー６頁）	8,500	1,000,000	※1
298号	平24年2月末（1月10日）	本誌　32頁（内カラー６頁）	8,500	1,000,000	※1
	合計	64	17,000	2,000,000	

※1　印刷会社：㈲三和印刷
印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む。

■平成23年度　組織部予算案

（名簿会計）（資料８）

	項目	予算額
収入	前年度繰越金	2,434,086
	一般会計より繰入 ※1	1,200,000
	名簿広告料	1,500,000
	合計	5,134,086
支出	名簿印刷費 ※2	3,500,000
	通信運搬費	280,000
	振込手数料等	20,000
	次年度繰越金	1,334,086
	合計	5,134,086

※1　名簿積立金　　※2　3,500部印刷

追悼寄稿

平成２３年3月11日 東日本大震災（お悔やみ）

この度の大震災では3名の同窓が亡くなられました。気仙沼支部長の小野隆男様（昭50食）、同じく気仙沼支部の横山芳雄様（昭23教ギ）、福島県支部の佐藤敏郎様（昭22ギ）です。ここに謹んでお悔み申し上げます。早速追悼文をいくつかいただきましたが、亡くなられた方一人につき1件しか親潮に掲載できず、大変申し訳なくも、最初に追悼文をお送りいただいた方の文面のみ、親潮に掲載させていただきました。他の方の追悼文につきましては、北水同窓会のホームページ（http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp/）に掲載させていただいておりますので、ご覧下さい。

佐藤敏郎兄（昭22ギ）を悼む

佐治鐘六（昭22ギ）

級友佐藤敏郎（としお）君が平成23年3月11日東日本大震災で死去されました。満85才でした。奥様町子様も同様で満79才でした。

大地震が南北広範囲に及ぶとの報道に、佐藤敏郎君が気掛りでした。昭和62年佐藤君宅を訪ねたことがあり、住居はいわき市中之作・江名両漁港の間に所在すること。又私自身が昭和35年に体験した八戸での津波の衝撃が今も忘れられず、眞っ先に佐藤君宅に電話したが、電話は鳴り続けるも応答無く、その後繰返し呼ぶも同様でした。次にいわき市役所震災対策本部へ、続いて避難先の情報提供紹介所へと、佐藤君ご一家の生存避難確認に期待を寄せるも朗報なきままでした。一方新聞の『亡くなった人達』欄に佐藤敏郎君、奥様町子様のお名前が掲載されたが半信半疑のままで、ここは警察当局への確認しか無いと思い、いわき中央警察署から所轄のいわき東警察署生活安全課で、佐藤敏郎君ご夫妻の死亡が確認され、3月15日ご長男へご遺体が渡されたことを聞き、謹んで黙祷を捧げました。一方、ご家族と連絡をとりたいとの想いで、福島県水産事務所、福島県漁連を通じて、3月30日ご長男順一さんと被災地の大混乱の中、奇跡的に通話させて頂きました。これは佐藤君が息子さんに私を引き合せて下さったに違いないと、級友のご縁を有難くかみしめております。

順一さんのお話によりますと、11日15時30分頃約６米の津波が襲来し、母は脚がわるく父が庇っていた様で、自分達は不在で間に合わなかった。建物は全部流失した。ご遺体は火葬の上、菩提寺に安置、葬儀は少し落着いてから行ないたい。との苦しい胸の内を話して下さいました。一瞬にして引裂かれた親と子、あまりにも悲しく、お気の毒で言葉もありません。

学生時代を振り返ってみたいと思います。昭和19年春まだ浅い函館の母校で相会ってから67年の歳月です。お互い変らぬ友情を続けられたことを誇りに思い感謝しております。佐藤君の変らぬ福島弁には如何にも漁撈生らしいタイプと風格で独特の存在感がありました。又、佐藤姓が二人あったことから貴君は『ビンロウ』と生涯親しみを込めた愛稱で呼ばれました。貴君のお人柄によるものです。1年生の全寮制共同生活、そして２年生（昭和20年）北海道、稚内と現在の北方四島、千島の国後島と歯舞諸島の志発島に分れてのタラバガニ漁業の３ヶ月にわたる勤労奉仕があった。未明から夕刻までの漁撈作業、時化休漁の日は網修理、缶詰作業など苛酷な労働だった。全員頑張り抜いたことが、級友の友情と絆を深めることになった密度の濃い私達の青春のひとコマであったと思います。

卒業後貴君はいわき市にあって、20代で実家の漁船船長、後に船頭を勉め、30代から個人船主として漁業、水産加工一筋に経営努力を重ね、その後、遠洋鮪延縄漁船（379）２隻、大目流網漁船（404）１隻にまで大型化し、経営安定に奮闘されると共に、地

元業界の発展に尽力され、公職を歴任されるなど、貴君の50年に亘る業績は見事で立派な人生でした。

貴君とは、北水第38期の仲間として旅行に、神戸、松江、函館、湯ヶ原では同伴で、更に松島、鬼怒川の集いにも参加され、又関東近郊の集まりである『北水黄門会』にも馳せ参じてくれ、共に談笑したことを懐かしく思い出しています。

晩年は、体調も落着き、適度の晩酌にご満悦で奥様とご一緒にのんびりと暮しておられた由、ご夫妻共々まだまだ充分余生を楽しめたと思います。

思わぬ不慮の災害、痛恨の極みです。

謹んで佐藤敏郎兄、町子様ご夫妻に心からのお悔やみを申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

安らかに昇天されんことを　合掌

のちに、ご長男順一さんより。

『5月22日いわき市しらた斎場にて、葬儀一切を無事終えました。大勢の方々にご会葬頂き、さぞ両親も満足している事と思います。北水第38期一同の生花を飾り、弔電も一番目に紹介させて頂きました。有難うございました。私達遺族が両親から学んだ一番の事は、人と人との繋がりの大切さです。』

以上の内容の手紙を頂きましたことを申し添えます。　6月20日記

小野隆男君（昭50食）追悼文

中村　高（昭50食）

昭 和46年4月、北大体育館　卓球部練習日、ステージの上で器用に壁打ちを黙々とやっている一人の男。僕は、その側で、素振り。新入部員としての小野隆男君と僕とのワンシーンでした。

46年組　男子新入部員は、10名程度だったと思うが、スーパールーキーは不在で、皆どんぐりだった。当時、4年目に、北海道学連ランキングNo.1のスーパースターが居て、とても活気があった。おかげで、いろんな大会に出る機会もあり、僕は、そして彼も、有意義な学生生活を送れたと思っている。七大戦といって、旧帝大7大学の対抗戦が毎年、主管を替えて催されるのだが、東北大主管の大会の終了後、何人かで、彼の家に押しかけた事があった。今考えると、とても迷惑をかけた事だろうと思う…　にも拘らずとても歓待して頂いた記憶がある。

水産学部移行後まもなく、函館地区大学秋季大会に二人でダブルスを組んで優勝を狙って出場したが、二人とも遠慮して他大学のペアーに譲ってあげた。卓球を離れた彼は、ダンスの講習をうけて、ダンスパーティで、壁のあだ花と化した僕（大多数は、この部類ではなかっただろうか）を尻目に片っ端から女性を相手にジルバを踊って、大いにエンジョイしていた。

大学卒業後、彼は、家業の水産加工会社を継ぐ為に故郷の気仙沼に戻った。僕も数年後故郷に戻り年賀状の交換のみの付き合いとなり、ここ数年は僕の不精で、それも疎遠になってしまっていた。

痛恨の痛みであります。

平成23年3月11日午後、TV、ラジオで東北地方の震災の模様を伝えていた。とっさにその方面に住む知人、友人の顔を思い浮かべた。そして、その画面が気仙沼の惨状を大きく写し出した。

「ここには小野隆男君が…」連絡のとれないもどかしさがつのっていた3月22日、東京に住む卓球部の同期からTelが入り「小野隆男が亡くなったぞ…」

「本当かよ…」　絶句。驚き、怒り、悲しみの入り混じったやるせない気持ちでいっぱいになり、自然と涙が出るのを禁じ得なかった。

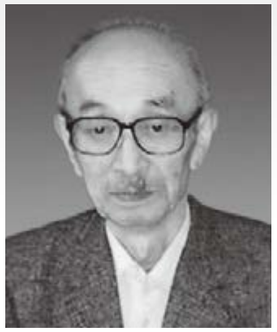
僕にとっての小野隆男君は、学生時代の彼であり続けている。彼の人なつっこい笑顔が思い浮かんでくる…あのちょっと太めで縮れっ気の髪で歯並びのきれいな丸い目ん玉の彼が。

もし、彼に会えるものなら、「また、卓球でペアを組んで今度こそ遠慮せず優勝しようぜ。」と伝えたい。災害とはいえ、期せずして最愛の御主人様を亡くされた奥様はじめ、残された御家族様にお悔やみ申し上げます。本当に残念でなりません。

最後に彼の追悼文を僕に書かせてくれた同期の高橋是太郎氏はじめ関係各位殿に御礼申し上げます。志半ばで亡くなった小野隆男君、安らかに眠ってほしい。　合掌

久保達郎先生（昭16ヨ）追悼記

山﨑文雄（昭33ゾ）



久保達郎先生のご逝去については平成23年2月15日付けの北海道新聞に掲示された。道新には平成23年2月12日 午 前7時45分肺炎のため死去、91歳、自宅は七飯町本町6－6－26、出棺14日午前11時、御通夜は14日午後6時、告別式は15日午後2時30分、北大水産学部助教授、教授を経て'83年退職、主にサクラマスの生理・生態の研究に取り組んだと紹介されていた。出棺、御通夜、告別式に参列し、いつかお会しようと思いながら、それを果たさず、慙愧な想いで先生のご遺体を拝した。お人柄を映し出しているご遺影を見つめて何故に温厚誠実、且つ頑固な生活を保ち得たのか改めて考えた。御通夜の席上で、司会者が久保先生を詳しく紹介していたが、その中で、昭和16年函館高等水産学校をご卒業後、旭川第7師団に入隊、教官として、隊員の教育に当たられたと聞いて感ずるものがあった。私はこの経歴と温厚、誠実なお人柄の関係をいろいろと想像した。

私が先生の御指導を受けたのは昭和30年学部移行で、函館に移り、クラス担任として接したその時からであった。先生のお人柄ゆえ、道内実習も、本州の研修旅行も担任として勝手なお願いを受け入れて下さり、同期のクラス仲間共々楽しく、多くを学ぶ事が出来た。講座を淡水増殖学講座と決め、その後は先生と身近に接しながら、研究者としての姿勢を学ぶ事が出来た。印象に残るのは、シロサケの年齢計測やサクラマス血液の比重測定などの研究に必要な装置をみなご自分で工夫されていた事や、研究に打ち込んでいた時期には、しばしば、夕方に弁当を食べている姿であった。先生は多分弁当を2つ持って来ていたのではと勝手に想像していた。

山間部の植生のバランスを重視し、森林伐採でイワナの生息場所が破壊されている事を大いに憂いておられた。イワナの増殖にも努力され、自宅にも2段3段と水槽を重ね幾つかの系統を飼育しながら、実験や放流に供していた。この飼育には先生の持つ様々なものを再利用する飼育手法が結集していた。よくぞこのような狭い場で、イワナの系統飼育が出来たものぞと感歎した。先生のイワナの放流には頑固1鉄の想いが込められていた。イワナについては知り尽くしていたが、放流魚に問題が指摘され、御自身も素直に認められていた。渓流魚の絶滅を危惧するあまりのことで、あったことは間違いない。先生のサケ属とイワナ属の増養殖に関する研究は広く海外の研究者にも知られ、1988年に開かれたイワナとサクラマスの国際会議で、著名な研究者達が、久保先生に注ぐ暖かい眼差しをそばからも感じとる事が出来た。

同窓の小林哲夫さん（昭25年ゾ）は告別式で弔辞を読まれ、先生のご薫陶に感謝しながら、先生のご性格を評して'数多くの教え子に慕われた謹厳実直な先生はお世辞にも世渡り上手とはいい難い面が色々ありました'と語られた。確かに先生は世渡り上手とは言えなかった。謀をせず、温厚、誠実、謹厳、実直な性格が世渡りより勝っていた。この性格は多分に旭川師団での教官時代、教え子たちを多数戦場に送り出した事と関連がありそうに思えた。先生にお供しながら、原茂先輩（昭13年養）をお見舞した時、先輩が熱く語られたノモンハン事件（昭和14年）に聞き入っていた姿が重なつた。この事件は軍指導部の作戦の誤りで、数日のうちに1万以上の兵士を死に至らしめた大惨事を引き起こしたのである。

先生の教えた旭川第7師団から、多くの兵士がガタルカナル、沖縄に派遣されている。この兵士の大半が戦死しているのである。担任であつた先生は軍人のシャツ、ズボンを身につけ、軍靴を穿いておられた。先生の想いの中に、旭川第7師団で教えた多くの兵士たちの姿があったに違いない。このことについてひと言も先生からお聞きしたことはなかった。先生は天国で、否定するかもしれないが、温厚、誠実に生きられた先生の想いの中に、戦争で亡くした若者たちに対する真摯な鎮魂の思いがあったに違いないと想像したのである。唯先生には自らを女性に弱い「七飯の仙人」と書き残すユーモアも見られたことを添えておきたい。先生にはお元気な時、今1度お会いしておきたかったと今も思っている。

高木常昭（昭29ゾ）長澤有晃（同）両氏を悼む

北澤成男（昭29ゾ）

1931年同じ函館市に生れた両氏が、奇しくも本年２月と６月にそれぞれ肺ガン、胃ガンで逝去されました。札幌市中央区と手稲区との同じ宗派のキリスト教会で大勢の友人等に見送られ天上の人となりました。誠に残念なことと存じます。

高木氏は、函館駅前の津軽屋旅館の次男として生まれ、当主の弟に当たる札幌の高木家の養子となりました。函館の高木家は、寮生だった私どもにとって忘れられない津軽屋食堂の土地等を今でも所有していると昨年故人から聞かされました。

水産学部卒業後は、道内各地の中学校教員として奉職され、札幌市立藻岩中学校で定年を迎えるまで、熱心に指導に当たり温情味溢れる性格の同氏は、多くの子弟から慕われていたと聞いております。

健康管理に注意を怠らなかった彼の隙をつかれてか、昨年５月肺ガンと分かり６月にＫＫＲ札幌医療センターに入院、抗ガン剤による治療を継続されましたが、本年２月７日に逝去されました。

同氏はスキー、写真、旅行など趣味も多く、特に札幌市立曙中学校当時の教師仲間である坂元輝行氏（昭35セ）の指導を受け、水彩による「はがき絵」を始め仲間５人で曙彩会を作り、毎年展示会を続けておられました。

長澤氏は長男として生まれ、函館市東雲町の幼稚園に通ったりした後、室蘭市に移り次いで旧満州国に渡りました。中国人のメイド付の生活だったそうですが、敗戦により夕張市に引揚げ、以来アルバイトで学資を稼がざるを得なかったそうです。大学４年夏の実習旅行は「金がなくて参加出来なかった。」と最近打明けられました。

卒業後、水産庁さけます孵化場に奉職し、1969年根室支場勤務当時、英語が堪能だった彼は、たまたま研修のためチリ国から派遣されたパブロ・アギレラ氏の指導に当たりました。

1972年チリ国におけるさけ養殖プロジェクトのスタートに加わることになり、以来チリ国に15年（政変による中断を含む。）次いでアルゼンチン国に８年と長期間滞在し、此等プロジェクトの成功に多大の貢献をしました。

長澤氏も趣味が多く、作文、作詩に秀で、学生時代から同期の及川哲夫氏等と油絵を描いておりました。最近ではジャズピアノ、アコーディオン等の教室にも通っておりました。ジャズ仲間でアメリカニューオーリンズに行ったり、又、最後の海外旅行となった昨年６月アコーディオン仲間でフランスのツール行などがありました。

親潮誌上に、軽妙な表現により「北水会ブェノアイレス支部」を紹介しましたが、お読みの方も多いかと存じます。

健康管理に無関心だった彼は、本年２月食事の飲みこみに不自由を感じ検査し、胃ガンと判明、ＫＫＲ斗南病院に入院抗ガン剤治療を始めましたが、食道等も冒されていた模様で、６月22日波瀾万丈の一生を終えられました。

ここに謹んで両氏の御冥福をお祈り申し上げます。

参考：１　「はがき絵作品集」
www.e-so-book.jp/book/takagi/
高木常昭
〈連絡先：高木千恵子〉
ＴＥＬ：011－822－4221

参考：２　細野昭雄　著
発売元　ダイヤモンド社
〒150－8409
東京都渋谷区神宮前６－12－17
ＴＥＬ：03－5778－7240
地球選書001
南米チリをサケ輸出大国に変えた日本人たち
ゼロから産業を創出した国際協力の記録

左：高木 常昭 氏　右：長澤 有晃 氏
“さっぽろ夏まつり会場”（札幌大通り公園 2007.8.8㈬）

谷口和也君（昭43ゾ）の急逝を悼む

池田　勉（昭43ゾ）

4月30日、同期の山根爽一（昭43ゾ）君より電話があり、谷口和也（昭43ゾ）君が本年4月24日に肺癌のため急逝したことを知らされた。谷口君は4月1日に血痰が出たので不審に思い、4月3日に検査入院したところ、かなり進んだ肺癌と診断され、15日に急遽入院、治療を始めたばかりであった。

谷口和也君は昭和43年増殖学科を卒業、大学院へ進学し、昭和48年に博士課程を修了した。その年、東海区水産研究所に入所、日本海区水産研究所、東北区水産研究所を経て平成8年に東北大学大学院農学研究科教授に転任、平成21年に定年退職（同大学名誉教授となる）、その後同大学客員教授に任命され、本年3月末に任期を終えた。

同君の研究は海藻の分類学、生態学、生理生態学の多岐にわたり、海藻と植食動物の化学物質を介した相互作用という新領域を開拓、無節サンゴモが生産するジブロモメタンがウニ幼生の変態を促進することを発見したことは特に有名で、これにより平成8年に「日本水産学会進歩賞」を受賞している。東北大学ではこの新領域をさらに発展させるとともに、当時深刻な社会問題となっていた「磯焼け」についてグローバルな視点から詳細な資料を解析してその発生要因を明らかにした。後年は、これらの研究で蓄積された知見を土台として、すでに磯焼けが進んだ沿岸域に海中林を復活させる大規模な実証実験に取り組んだ。これらの研究活動を通して多くの若手研究者を育てたことも大きな功績である。

発表した学術論文は100編を超え、多数の報告書、著書の分担執筆の他、平成10年にはそれまでの研究の集大成ともいえる「磯焼けを海中林へ－岩礁生態系の世界」（裳華房）を単著で出版している。学会や地域産業振興への貢献にも熱心で、日本水産学会などの理事、評議員、宮城県産業振興審議会の水産林業部会長をはじめ、水産庁、全国の都道府県の各種委員を歴任した。

思い起こせば、学生時代いつもベレー帽をかぶり、教室でカンツオーネを大声で歌っていた彼、当時はあまり普及していなかったスキューバ潜水を海藻調査に取り入れた彼、既存学説と果敢な論争をした彼、情熱的で抜群の行動力をもっていた彼。最後に会ったのは、平成20年3月である。私の北大退職記念祝賀会に、彼はわざわざ仙台から来てくれた。今年、彼からの年賀状には生きいきとした字で「小中学生と一緒に磯採集やワカメ養殖をやっています」とあり、その4カ月後に突然の訃報に接するとは誰が予想できたであろう。まさに諸行無常である。

谷口和也君の藻類研究に捧げた人生とその功績に深く敬意を表するとともに彼の生前の友情に感謝し、心より冥福を祈る。

合掌

食品工場・厨房内の自主検査のお手伝いをします。
HACCP・ISO導入指導及び検証・評価・改善指導
★食品の微生物検査　★施設類・道具・器具類の拭き取り検査
★食品・副資材・調理室内の微生物の除殺菌テスト　★食品の賞味期限の設定
★保存テストのデータ蓄積　★その他衛生指導、社員教育などのご相談をお受けします。
株式会社 キュー・アンド・シー
代表取締役 奥野 和弘 昭和42年製造　松原 伸二 昭和62年化学　久保 雅俊 平成12年資源　阿部いく子 平成17年資源
分析室 〒065-0026 札幌市東区北26条東22丁目6-7 TEL.011-786-8300 FAX.011-786-8266
URL http://www.qandc-lab.com/ E-mail haccp@qandc-lab.com

寄稿

高齢組み４名の北水会

菊池良兵（昭22工）

平成23年２月28日、島根県隠岐の島町で、高齢組み４名の北水会を開いた。

出席者は

昭和18年９月卒　35期製造科
松長信男　（山口県出身、県立隠岐水産高校第20代校長、隠岐の島町在住）
昭和19年９月卒　36期漁業科
岩滝克巳　（隠岐出身、静岡県立焼津水産高校校長、隠岐の島町在住）
昭和20年９月卒　37期水産増殖科
阿山多喜也　（東京出身、有限会社隠岐真珠社長、隠岐の島町在住）
昭和22年３月卒　38期漁業科
菊池良兵　（岩手県出身、旧制遠漁７期、24年３月修了、隠岐水産高校第21代校長、松江市在住）

菊池が昭和61年、隠岐水産高校を定年退職まで、この一期違いの４名が同じ隠岐に居りながら集まったことはなかった。お互い、高齢になり、近いうちに集まりたいものと考えていた。今年も菊池（松江市）に３月１日の隠岐水産高校の卒業式の案内があったので、開催を提案し決まった。

卒業式前日の２月28日フェリーは正午、隠岐島町西郷港に入港、午後１時半から町内の小料理店で開催した。隠岐には現役のＯＢが２名（隠岐水産高校勤務の三橋正孝、村上　一）居るが、翌日が卒業式であることもあり、昼間の開催なので、案内しなかった。この４人は函館在学中、１期違いで、お互いよく知っており、共通話題が多く賑やかな会になった。20年振り、或るいはそれ以上かもしれない再会の人もあった。とにかく話しに花が咲くとはこのことであろう。終戦を挟んでの年代であったから、話題は学校だけではなく、動員先のこと、戦地のこと等も多かった。学校のことでは北辰寮での寮生活を懐かしがった。

教授に関する話題も多かった。村山校長、今田教頭こと「こんちゃん」、「せいない」こと山本清内、川崎あしょこ、さんちゃん、上野さん、英語の太郎さん、生物の佐藤さんや田村さん、武田先生、公民、修身？の服部喜作教授、事務の名物女性事務官くまさん等など、懐かしい名前がとびだした。松長先輩はシベリア抑留数年、岩滝先輩は戦後間もなく、最近話題の竹島に上陸、阿山先輩は樺太に動員中、終戦となり危うく抑留されるところであったり、菊池も国後島に動員され、終戦１ヶ月前に引き揚げたこと等、話題は多く時間の過ぎるのも忘れた。

菊池が平成21年度の名簿を持参したので、名簿を開きながら同窓の動向をたぐることができ会話は盛り上がった。我々の時代は薄い名簿だったが、最近の正会員のページは234ページと厚くなった。そしてわれわれ年代は12ページあたりまでに繰り上がった。

昨年５月末、青森で開催された同窓会に、岩手県への帰省も兼ねて久しぶりで出席した。小生が面識ある同窓は、先輩の神山先輩だけであり、殆どが昔の北辰寮生活を知らない世代の若い人達であった。最期に肩を組んで唄う寮歌も「都ぞ弥生の」であり、「北辰斜に影射して」の寮歌、また「星の姿に憧れて」の逍遙歌を唄う者は居らず、寂しさを通り越して時代の変遷を実感した。

なお、名簿を眺めながら思うことであるが、最近の正会員の住所が、空白になっている部分が目立つように感じられる。地方支部の責任もあると思う。死亡したわけでもあるまいが、このような時代で就職先が転々と変わるのが理由なのか。これでは本部からの連絡も困難であろう。当然、会費の徴収も不可能であり、同窓会の維持も困難になり、遂には破産という危機もなきにしも非ずと危惧したくなる。実直に住所を連絡し、会費を納めている高齢ＯＢも多いと思う。これは本学だけではなく、いずこの学校も似たようなものであるのか。名簿を繰りながら名簿の中にも世相がにじみ出ているように思うことであった。

島根県は東西に長く、また離島もある。隠岐、或るいは本土で会合するにしても泊りがけになるので大変だ。隠岐と本土と別れて開催するという選択肢があってもよいと思う。このような時代の趨勢では、地方理事の積極性が、同窓会の存否を左右すると云っても過言ではないように思う。

今年は東京で５月27日、開催決定とか。是非参加したい。東京なら同期の仲間も多いから久しぶりで再会できると思う。残り少ない人生、貴重な機会だと思う。

左端から菊池、阿山、松長、岩滝

地域の活性化のために全身全霊の情熱で取り組みます。
NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD
株式会社 中山薬品商会
代表取締役　中　山　一　郎
本　　社　〒040-0075　函館市万代町20番10号
PHONE（0138）40-6275・FAX40-3939
釧路営業所　〒084-0903　釧路市昭和町２丁目15番地３
PHONE（0154）52-4101・FAX52-4103
http://hakonaka.jp

平成22年度北水同窓会小樽支部総会 報告

幹事長　平山　聡（昭54ギ）

例年にない大雪に見舞われた小樽市ですが、平成23年2月18日、北水同窓会小樽支部総会が、市内「潮亭」で開催されました。今年は、初参加の2名を含め、19名での総会となりました。活動報告、会計報告、次年度役員選出など、一連の議事を終了し、懇親会へと移りましたが、初参加のメンバーもあって、近況報告など和気あいあいのうちにあっという間に時間が過ぎ、来年度の再会を約して解散しました。来年度も、是非多くの皆様に参加していただきたいと思います。

この原稿を書いている現在、関東・東北を襲った大震災と大津波による災害が発生して4日目です。私も岩手県に4年間住んでいましたので、各地の惨状に言葉もなく、呆然とするばかりです。いまだに多くの方が行方不明で、同窓の私の友人・知人とも連絡がとれない状態です。どうか命だけは助かってほしいと、今はただ無事を祈るばかりです。

前列右より
　藤田　政晴（昭31ゾ）
　勝木　　茂（昭31ギ）
　小田　一夫（昭45ギ）
　東　　廣（昭29ギ）
　工藤　　豊（昭23セ）
　堀井　亜希（平９食）
中列右より
　斎藤　博行（昭47化）
　高山　裕斌（昭36ゾ）
　川島　孝省（昭38セ）
　五十嵐映児（昭48化）
　大野　　肇（昭55ギ）
　大田　道代（平３ゾ）
後列右より
　高嶋　一成（昭63ゾ）
　藤本　崇人（平19生）
　谷全　尚樹（平15海）
　小野寺正裕（昭59ギ）
　安達　泰之（平11海）
　梅崎　真大（平10ギ）
　磯谷　揚一（昭49ゾ）

著作紹介 1

「北海道の全魚類図鑑」

著者　尼岡邦夫（特別）
　　仲谷一宏（昭43ゾ）
　　矢部　衛（昭51ゾ）
出版社　北海道新聞社
発行年月　2011年3月
定価　2800＋税

魚類は人間による自然環境の破壊によってその資源を著しく低下させられてきました。また、地球環境の変化などによって魚類を取り巻く状況は一層厳しものになってきています。このような中で、魚類の種の多様性や、その保護についての関心が高まりつつあります。そこで誰にでも簡単に、しかも正確に魚類を調べることができる図鑑の必要性が増してきています。北海道の魚類相の研究については、札幌農学校を卒業した内村鑑三が北海道で水産の研究に従事し、1884年に日本で初めての「日本産の魚類目録」を編纂しました。その中に北海道産の魚類もかなり見られ、二十数種にアイヌ名が見られるユニークなものでありました。しかし残念ながらいろいろな理由によって出版されませんでした。その後、内外の多くの魚類研究者たちによって日本の魚類相を明らかにする中で、北海道の魚類も確実にその数を増加させてきました。上野(1971)は北海道およびサハリンや千島列島の周辺海域に生息する魚類をまとめてこれらをリストにして発表しました。これまでに日本産の魚類に関する図鑑類は数多く出版されてきています。しかしこれらの図鑑の中に北海道の魚類は少ししか出ていません。まして北海道産の魚類だけを扱った図鑑類は皆無でした。1983年に著者らは北海道の魚類に関する初めての図鑑である「北海道の魚類と海藻」を出版しました。しかし、その時には　準備された魚の写真が少なく満足のいくものではありませんでした。そこで北海道の魚類相を解明するという研究課題を設けて、北海道の各地をまわって集めた魚類、練習船、漁船、調査船などに乗って集めた魚類など片っ端から標本を作成し、その魚の写真を撮影してきました。写真だけではその種の正確な査定は出来ないので、標本として保存して将来の研究につなげる必要があります。（現在では、種の保存に関しての世界的な取り決めで、標本からDNA解析のためのサンプルも一緒に保存することにしています。）1970年代後半に200海里時代に突入して、我が国の水産資源の正確な把握のために深海魚の調査が行われました。東北地方沖や北海道の周辺海域の調査から多くの深海魚の標本と写真を集めることが出来て、北海道の深海魚類相の解明は飛躍的に進みました。そこで1995年に著者らは「北日本産魚類大図鑑」を出版しました。この図鑑は570種を網羅した本格的なもので、それなりの役割を果たしてきました。しかし残念ながら絶版になり、北海道の魚図鑑はまったくなくなってしまいました。何としても次のものを出したいと考えていたときに、北海道新聞社から図鑑の作成の依頼があり、2年ほどの準備の後、やっと出版することが出来ました。

本図鑑は大きく2つの章で構成されています。第1章は北海道の魚類の多様性について書いています。北海道の海域を太平洋岸、日本海およびオホーツク海に分けてそれぞれの海域の魚類相の特徴とその起源および各海域間の魚類の関係について解説しています。例えば、日本海には対馬暖流が北上し、それによって多くの南方種が運ばれてきます。一方、太平洋では黒潮ははるか沖合を流れるために、南方種は津軽海峡からやってくることが多いです。オホーツク海では日本海側から流入する魚は少しありますが、むしろこの海域だけに見られる種が多いようです。淡水魚については北海道の絶滅種、絶滅危惧種、準絶滅危惧種など、また最近話題になっている外来種や国内外来種について述べています。第2章は各論です。北海道産のほとんど全種の651種の魚の写真と各種の特徴に加えて、生息域、成長、食性、産卵期などの生態、分布、利用などについて述べています。また、地方名および英名を掲げています。この中には国立科学博物館の篠原現人さん（昭62ゾ）と本著者の一人の矢部　衛が奥尻と松前小島沖から採集し、新属新種として記載したフリソデガジ、鶴岡　理さん（平12生）、宗原弘幸さん（昭61修漁）および矢部衛が知床から発見した新種ラウスカジカ、北海道の河川にいることが初めて確認されたアブラハヤなどのたくさんの最近の情報が載っています。本書は魚を取り扱う人々や、魚を愛する人々のお役に立つことを著者一同は心から望んでいます。

著者を代表して、尼岡 邦夫

「魚の行動習性を利用する釣り入門」

著者　川村軍蔵（昭42エ）
出版社　株式会社 講談社
発行年月　2011年4月
定価　880＋税

第1章　魚を知る
第2章　撒き餌を科学する
第3章　釣り餌を科学する
第4章　ルアーを科学する
第5章　釣りのポイントとタイミング
第6章　釣りにくい魚と釣りやすい魚
第7章　釣り具と仕掛け
第8章　釣り場の水環境
第9章　釣りのルールと釣り場の保全

講談社ブルーバックスから4月20日発売の『魚の行動習性を利用する釣り入門』を紹介申し上げます。
釣り人を悩ます多くの疑問に科学的に答えていて、プロの漁師も用いる研究成果を釣り人向けに解説した画期的な釣り入門書です。科学書としても価値のある本です。

□学位取得者

【平成22年】

朴　　俊　成	ウォータージェット推進型水中ビークルの運動に関する研究
小　原　昌　和	養殖サケ科魚類の卵内感染による垂直伝播の防除技術に関する研究
登　坂　亮　太	Studies on pre-and early vitellogenic oocyte growth in Japanese eel, *Anguilla japonica* （ニホンウナギ，Anguilla japonicaの初期卵成長に関する研究）
河　村　　博	サクラマス*Oncorhynchus masou masou* のスモルト化に関する生理生態学的研究およびその増殖事業への応用
大久保　　剛	水産リン脂質の新規抽出法の開発と生理機能に関する研究
田　丸　　修	沿岸イカ釣り漁業の操業計画に関するシステム学的研究
西　川　哲　也	養殖ノリ色落ち原因珪藻*Eucampia zodiacus* の大量発生機構に関する生理生態学的研究

【平成23年3月】

伊　藤　元　裕	海鳥における自身のためと雛のための餌選択と採餌行動ー餌の運搬方法の違いによる採餌戦略ー
井　上　裕紀子	カワウの繁殖開始時期と餌が繁殖成績に与える影響
小　林　由　美	北海道東部沿岸に生息するゼニガタアザラシの個体群動態と保全に関する研究
髙　原　英　生	アニサキス科線虫類幼虫のスルメイカへの寄生
竹　下　文　雄	Adaptive significance of behavioral and morphological traits on conflictive interactions in genus *Caprella* （ワレカラ属の対立的相互作用における行動・形態形質の適応的意義）
ムゴ ロビンソン モゲンディ	Spatial Modeling of Skipjack tuna (*Katsuwonus pelamis*) Habitat in the western North Pacific using Satellite Remote Sensing and GIS （衛星リモートセンシングとGIS（地理情報システム）を用いた西部北太平洋におけるカツオ生息域の空間モデリング）
ムハマド クルニア	Study on the Three-dimensional Target Strength of Fish for Horizontal Sonar （水平ソナーのための魚の三次元ターゲットストレングスに関する研究）
山　﨑　友　資	クロタマキビの貝殻形態に見られる時空間スケールに応じた急速な進化と表現型可塑性
任　　美　珍	Neutraceutical study on marine allenic carotenoids with anti-obesity effects on mice （海洋性アレンカロテノイドの抗肥満作用に関する栄養・機能学的研究）
奥　村　知　行	水産機能性成分の抗肥満作用に及ぼす植物成分の併用効果に関する研究
清　水　茂　雅	培養併用蛍光 in situ ハイブリダイゼーション法を用いた食中毒細菌の高精度定量検出に関する研究
髙　橋　　潤	スサビノリ *Porphyra yezoensis*における形質転換技術の開発に向けた無性胞子の生理学的研究
鄭　　亮	Proteomics on the inviability and sterility in salmonid hybrids （サケ類雑種の致死性と不妊性のプロテオミクス）
津久井　隆　行	肝臓におけるn-3系不飽和脂肪酸変換の活性化およびその分子機構の解明に関する研究
橋　本　　諭	下痢性貝毒検査への機器分析法の導入に関する研究
三　上　奈　々	マボヤに含まれる機能性成分の複合的作用による糖及び脂質代謝改善効果に関する研究
盛　田　祐　加	Immunochemical and molecular biological studies of pregnancy-associated proteins in small odontocetes （小型ハクジラ類の妊娠関連タンパクに関する免疫生化学的および分子生物学的研究）
ヤスイ ジョージ シゲキ	Studies on restoration of the loach *Misgurnus anguillicaudatus* from cryopreserved sperm and blastomeres by androgenesis and germ-line chimera （ドジョウにおける精子、割球の凍結保存と雄性発生、生殖系列キメラを介した個体復活に関する研究）
吉　川　修　司	魚醤油製造における微生物発酵技術の導入に関する研究
吉　田　夏　子	環境水中におけるコイヘルペスウイルス（KHV）の生存性および抗 KHV 物質産生細菌を用いた魚類飼育排水の浄化に関する研究
ラハラシュ ジネブ	Studies on genetic markers and linkage mapping in the barfin flounder, *Verasper moseri* （マツカワにおける遺伝マーカーと連鎖地図作成に関する研究）
境　　磨	海洋生活期におけるサケ*Oncorhynchus keta*の摂餌生態の季節変化に関する研究
北　村　武　文	太平洋型イトヨにおける生活史多型とその形成機構に関する生態学的・遺伝学的研究
段　　蕊	Study on the food functionalities of collagen and gelatin prepared from Chinese freshwater fish byproducts （中国産淡水魚の水産加工廃棄物から調製したコラーゲン、ゼラチンの食品機能性に関する研究）
李　　雅　娟	中国産倍数体ドジョウの遺伝学的研究

□平成22年度 卒業・修了者の就職先一覧

学部

㈱ヤマリア／北海道漁業共済組合／神奈川銀行／㈱極洋／雪印メグミルク㈱／㈱北海道ラボラトリー／北海道大学／大作商事㈱／㈱ニトリ
山形県水産試験場／ホクレン農業協同組合連合会／羽島市役所／月星海運㈱／石川県漁業協同組合／秋田県庁／北海道長万部中学校
稚内市役所／北斗市役所／㈱かね貞／北の藍染織工房／㈱モンテローザ／㈱神田造船所／㈱データベース／三菱電気ビルテクノサービス㈱
野口観光㈱／北海道庁／㈱セイコーマート／吉川水産㈱／三機工業㈱／室蘭信用金庫／東罐興業㈱／北海道漁業協同組合連合会
田辺三菱製薬㈱／湧別高等学校（紋別郡湧別町）／札幌市役所／㈱日本アクセス／カゴメ㈱／函館市役所／全国漁業協同組合連合会
学校法人希望学園 札幌第一高等学校（専任講師・物理・1年契約）／㈱カーマ／株式会社ムトウ／仙都魚類㈱／株式会社ゼニライトブイ
伊藤ハムデイリー㈱／杏林製薬㈱／北海道信用漁業協同組合連合会／エスビー食品㈱／東洋水産㈱／㈱ニチレイロジグループ／サンダイヤ㈱
北海道銀行／北海道警察／昭和産業㈱／ＪＡ北海道中央会／学校法人愛西学園 弥富高等学校／よつ葉乳業㈱／㈱ワイキューブ／総合商研㈱

修士

海藻技術研究所アルガテックKyowa ／井村屋製菓㈱／名寄市役所／ SOC㈱／㈱ニトリ／㈱メタルワン／富士通ＦＩＰ㈱／アロカ㈱／㈱モンベル
㈱エコニクス／東罐興業㈱／グローリー㈱／㈱オービック／トーイン㈱／学校法人成蹊学園 私立成蹊高等学校／今治造船㈱／㈱菱食
ベル食品㈱／富士ゼロックス㈱／㈱東洋信号通信社／パナソニックシステムソリューションズジャパン㈱／住友重機械マリンエンジニアリング㈱
㈱月星海運／サンヨー食品㈱／㈱サカイ引越センター／帯広畜産大学／スチールプランテック㈱／㈱日本政策金融公庫農林水産事業
㈱日立製作所／㈱北海道日立情報システムズ／㈱NECソフトウェア北海道／全国共済農業協同組合連合会（ＪＡ共済）
北海道信用漁業協同組合連合会／㈱マルハニチロ食品／いなば食品㈱／日清オイリオグループ㈱／協和発酵キリン㈱／㈶材料科学技術振興財団
サントリーホールディングス㈱／ミヨシ油脂㈱／日本たばこ産業株式会社／味の素㈱／ヤマサ醤油㈱／㈱日立ソリューションズ
明治乳業㈱（H23.4より「㈱明治」）／北海道信用漁業協同組合連合会／日立造船㈱／イカリ消毒㈱／㈱サイゼリヤ／日本新薬㈱／㈱ファンケル
㈱キュー・アンド・シー／コスモエンジニアリング㈱／栗田工業㈱／㈱極洋／㈱ＡＤＥＫＡクリーンエイド／㈱メニコン／ユニ・チャーム㈱
不二製油㈱／大塚製薬㈱／㈱紀文食品／極洋㈱／雪印乳業㈱（雪印メグミルクグループ）／㈱ニチレイフーズ／ケンコーマヨネーズ㈱
大塚食品㈱／㈱農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所／㈱ニチレイロジグループ／日本水産㈱／東洋水産㈱／㈱東洋新薬
北海道庁／パンケップ州ポリテクニック大学／富士通エフ・アイ・ピー株式会社／日本甜菜製糖㈱／㈶食品環境検査協会

博士

国立極地研究所／岩手県水産技術センター／㈱水産総合研究センター 水産工学研究所／海事職員（おしょろ丸甲板員）／国立ケニア水産研究所
ハサヌヂン大学／蘭越町／北海道立衛生研究所／若狭町役場／長野県水産試験場／函館大学付属有斗高等学校
東京工科大学（応用生物学部）／山口県立大学／ブラジル環境省（シコ・メンデス生物多様性保全研究所）
北海道総合研究機構食品加工研究センター／エア・リキッド㈱／岩手県水産総合研究センター／㈱水産総合研究センター 遠洋水産研究所
㈱茨城県水産試験場／愛知県水産試験場／釧路水産試験場

□会員異動

平 成22年12月1日 付	平石准教授が教授に昇任
平 成23年3月31日 付	袁助教が退職 鹿児島大学水産学部に准教授として着任
平 成23年4月1日 付	原　彰彦教授・阿部周一教授が特任教授に採用 笠井助教が准教授に昇任 大木淳之氏・安間洋樹氏両名が水産科学研究院准教授に採用

『北水同窓会東日本大震災義援金』のご報告

山本　忠雄（昭19ギ）
根津　允雄（昭19セ）
神山　茂郎（昭19セ）
渡辺　　修（昭20ギ）
正戸　孝一（昭20ギ）
市川　　渡（昭22ギ）
北浜　　仁（昭22ゾ）
魚田　昭治（昭23ギ）
服部　晴夫（昭23ギ）
齋藤　昭二（昭23エ）
三田　健二（昭24ギ）
直江　昭良（昭24ギ）
松森　敏昭（昭24ギ）
安井　敬一（昭24エ）
阿部　眞次（昭25セ）
瀬戸　靖之（昭26エ）
本田　泰敏（昭28ギ）
寺地　　潔（昭28ゾ）
藤田　七蔵（昭29エ）
加藤　和行（昭29セ）
藤田　龍四（昭30エ）
狩野　　守（昭30セ）
富田　幸二（昭30セ）
金石　和哉（昭30セ）
川元　　功（昭31エ）
横田二美雄（昭31エ）
服部保次郎（昭31エ）
田村禮四郎（昭31ゾ）
三幣　英男（昭32エ）
木島　　登（昭33エ）
島崎　健二（昭33エ）
親松　　厚（昭34セ）
川村　　満（昭34セ）
曽我　照光（昭34セ）
大橋　信英（昭34セ）
山村　昭夫（昭35ギ）
横山　　清（昭35エ）
髙間　浩蔵（昭35セ）
堀田　敬三（昭35セ）
若杉　　泰（昭35セ）
土田　健治（昭35ゾ）
小林　英広（昭36ギ）
渡部　　昭（昭36エ）
飯塚　光江（昭36エ）
守屋　義秀（昭36セ）
今野　俊治（昭36セ）
佐藤　哲夫（昭36セ）
壁矢　惠行（昭37ギ）
五十嵐憲治（昭37エ）
絵面　良男（昭37セ）
嶋田　正孝（昭38ギ）
平澤　貞廣（昭38ギ）
吉田　宣雄（昭38ギ）
安間　　元（昭38エ）
佐藤　英明（昭39セ）
藤原　次郎（昭39セ）
佐々木南夫（昭39ゾ）
村井　武四（昭39ゾ）
山本　孝三（昭39ゾ）
畑中　　寛（昭40ゾ）
佐藤　隆義（昭40ゾ）
川越　賢二（昭41ギ）
上島　保幸（昭41セ）
源　　雅子（昭41セ）
千葉　泰樹（昭41ゾ）
布施　英憲（昭41ゾ）
渋谷　哲郎（昭42ギ）
大橋　健二（昭42セ）
青木　秀昭（昭42ゾ）
清水八洲男（昭43エ）
渡邉　智視（昭43化）
坂田　周夫（昭43化）
成田　安孝（昭43ゾ）
花田　　博（昭43ゾ）
池田　　勉（昭43ゾ）
谷口　義信（昭44ギ）
高橋　豊美（昭44エ）
山口　　晧（昭44エ）
佐々木　寛（昭44エ）
沖野　洋之（昭44ゾ）
高越　哲男（昭44ゾ）
志賀　直信（昭44ゾ）
箕田　　誠（昭45ギ）
福田　一義（昭45化）
簗田　　満（昭45化）
長澤　武夫（昭46ギ）
石川　英訓（昭46化）
今井　秀明（昭46ゾ）
原　　彰彦（昭46ゾ）
長沼　昭夫（昭47ギ）
大串　松彦（昭47化）
吉水　　守（昭47食）
原口　健二（昭47ゾ）
水戸　啓一（昭47ゾ）
伊藤　　誠（昭48ギ）
帰山　雅秀（昭48ゾ）
上原　富男（昭49食）
今野久仁彦（昭49食）
板橋　　豊（昭50化）
高橋是太郎（昭50食）
福井　　滋（昭50食）
山本由美子（昭50食）
飯田　浩二（昭51ギ）
横井　　隆（昭51ギ）
斉藤　　進（昭51ギ）
末岡　　順（昭51ギ）
吉田　和彦（昭51ギ）
渡辺　好一（昭51ギ）
菅原　隆三（昭51ギ）
吉田　英雄（昭51ゾ）
渋谷　和治（昭51ゾ）
荒井　克俊（昭51ゾ）
土屋　康弘（昭52ギ）
加藤　秀男（昭52ギ）
表　　芳弘（昭52ギ）
二渡　　衛（昭52化）
伊藤　雅一（昭52ゾ）
阿久澤　豊（昭53ギ）
梶原　善之（昭53ギ）
澤口　記子（昭53化）
山根　重孝（昭53博ゾ）
森　　厳（昭54ゾ）
鈴木　龍児（昭55ギ）
飯塚　　正（昭56ギ）
鈴木　一成（昭57化）
水野佳代子（昭57食）
小島　隆人（昭59ギ）
横田喜一郎（昭59化）
大迫　典久（昭59ゾ）
菅井　幸代（昭60食）
田辺　仁志（昭61ギ）
割方　道子（昭61ギ）
村井　英樹（昭63ギ）
大西　広二（平元ギ）
清末　数仁（平元ギ）
岡本　　聡（平元化）
林　　善敬（平元ゾ）
樋口　正仁（平元ゾ）
片桐　保昭（平２ギ）
日沖　英憲（平２ゾ）
工藤　秀明（平３ゾ）
小根　　仁（平４食）
大野　利恵（平５食）
平松　尚志（平５ゾ）
水益　周子（平６ゾ）
森田健太郎（平９ギ）
奥村　健美（平９ゾ）
渡邊　聡子（平10食）
森田　亜美（平11シ）
松田　圭史（平12シ）
笠井　久会（平12資）
河合　俊郎（平12生）
岡本　陽子（平13シ）
粟野　慎一（平13資）
鵜沼　ワカ（特　別）
村上　　敬（特　別）
佐伯　宏樹（特　別）
吉野　吾朗
氏名不掲載希望１名

【愛知県支部一同】

【忍路会】
安間　　元（昭38エ）
花村　剋己（昭38エ）
浪江　章一（昭38エ）
吉永　孝一（昭38エ）
遠山　　明（昭39ギ）
天下井　清（昭39エ）
荒木　伸也（昭39エ）
黒川　悦明（昭39エ）
坂本　浩輔（昭39エ）
竹内　　恒（昭39エ）
成田　龍一（昭39エ）
森　　紘夫（昭39エ）
渡辺　忠良（昭39エ）
伊勢　宣勝（昭39セ）
大久保征二（昭39セ）
大橋　　功（昭39セ）
岡田　利則（昭39セ）
上保　　武（昭39セ）
千葉　茂春（昭39セ）
塚崎　清司（昭39セ）
寺本　紀久（昭39セ）
久木　一彦（昭39セ）
柴田　勇夫（昭39ゾ）
関根　忠雄（昭39ゾ）
梶原　　武（昭40ギ）
今井　章介（昭40エ）
上林　達雄（昭40エ）
栗原　幸子（昭40エ）
信太　洪一（昭40エ）
石黒　祥之（昭40セ）
武部　忠司（昭40セ）
畦地　清信（昭40ゾ）
野村　泰造（昭41エ）
吉川　圭一（昭44エ）

【大阪府支部】
藤井　　明（昭36セ）
大野　正浩（昭36セ）
福田　義治（昭37セ）
入江　和彦（昭45ギ）
田中　文夫（昭50食）
大村　泰治（昭51食）
北出　　弘（昭52ギ）
中　　進作（昭53化）
中山　　勉（昭54ギ）
福間　浩一（昭55ギ）
佐々木雅人（昭56化）
北林　孝也（昭56化）
滝澤　和宏（昭60化）
藤井　英嘉（昭61ギ）
中田　邦彦（昭61食）
伊藤　貴彦（昭62ギ）
鳥村　欣也（平元ギ）
吉田　幸治（平元ギ）
松谷　隆昭（平２ギ）
川邊　一郎（平３ギ）
小田　哲也（平４ギ）
新瀬　幾恵（平７ゾ）
梅田　教生（平７食）
久保田英之（平８ギ）
辻村　浩隆（平10ゾ）
井上　順之（平12ギ）
大西　寛明（平12資）
尾上　和則（平14資）
尾上(奥田)律子（平14資）
佐野　史和（平15海）
中村　拓真（平15シ）
占部　正悟（平17資）

【東京支部】
神山　茂郎（昭19セ）
國米　　学（昭20ギ）
菊池　良兵（昭22ギ）
三上　俊之（昭22セ）
高田　信夫（昭23ギ）
魚田　昭治（昭23ギ）
田村　龍彦（昭23ギ）
生田　博司（昭23セ）
太田　庸穂（昭24教ゾ）
真田　幸雄（昭25セ）
今井　　忠（昭26セ）
中嶋　　同（昭29セ）
小山　　光（昭29セ）
島中　貞夫（昭32ギ）
小泉　　守（昭32セ）
山田　　俊（昭33セ）
漆畑　信昭（昭34エ）
細萱　安彦（昭35エ）
池田　清哉（昭36エ）
和田　　厚（昭36エ）
鈴木　賢一（昭36セ）
角田　靖雄（昭36セ）
牧野　一彌（昭36セ）
町田　建治（昭36ゾ）
阿部　　將（昭37セ）
中田　邦雄（昭37セ）
鉢木　和三（昭38ゾ）
千葉　茂春（昭39セ）
畦地　清信（昭40ゾ）
廣瀬　靖則（昭40ゾ）
熊谷　克彦（昭43食）
重田　親司（昭44エ）
藤井　真一（昭44エ）
林　　茂（昭45食）
守下　順雄（昭45食）
吉水　　守（昭47食）
細見　典男（昭48食）
平山　雅照（昭48化）
品治　二郎（昭50食）
樋口　達夫（昭50食）
菅原　謙二（昭51ギ）
伊藤　隆宏（昭51食）
松本　邦彦（昭51食）
田中　章夫（昭51化）
浜谷　一郎（昭51化）
鶴岡　秀俊（昭52ギ）
栗原　茂樹（昭52化）
中井　正人（昭54ギ）
白井　　暁（昭54ゾ）
辻　　信之（昭55ギ）
宮崎　洋一（昭55化）
吉岡　正弘（昭55化）
小林　次郎（昭55ゾ）
飯塚　　正（昭56ギ）
岩井　弘光（昭57ギ）
西巻　公路（昭57ギ）
鈴木　一司（昭57食）
天野真理子（昭59ギ）
小泉　　玲（昭61ギ）
前田　竜郎（昭62化）
糸井　伸行（平２食）
大條　雄二（平３食）
釜谷　　明（平３食）
山田　正克（平４ギ）
新宅　優一（平５ギ）
樋口　智之（平６ギ）
笹原　敏明（平７ギ）
小杉　哲也（平７食）
柴田　達人（平８食）
久保田　真（平９ギ）
折出　真一（平10ゾ）
福原　庸介（平11生）
岸本　慎弥（平12海）
高橋　信之（平12海）
岡元　泰子（平12資）
藤本　章人（平12資）
高橋　　実（平13資）
野間　葉子（平13資）
南川　美鈴（平14資）
高木　習輔（平14シ）
関口　督人（平15生）
中林　祐輔（平16資）
辰巳　智香（平16資）
関根　慶彦（平18資）
島元　章宏（平19資）
二宮　正光（平22生）
柴　龍太郎（平22海）
佐伯　　浩（北大総長）
桜庭　慎吾（北大東京同窓会）

この度は上記のように、大変多くの同窓の方々から義援金を賜わりました。総額は7月27日現在で、約353万円に達しました。本部幹事会では最終的に、被害が特に甚大な地域、すなわち岩手、宮城、福島に重点的に配分することを決定し、他の被災県である青森、千葉、茨城の同窓会支部の了承のもと、過日3県に120万円ずつ配分致しました。均等配分のために足りない分は、本部の予備費から支出致しました。単純な均等配分につきましては、「それは如何なものか」というご意見もあろうかとは存じますが、結局誰もが納得のいく明確な数値に基づいた県ごとの重みづけ根拠を現時点では示すことができないという理由で、“3県均等配分”に決定致した次第です。

ともかく、前幹事が開始した義援金が当初の予想以上集まりまして、感謝に堪えません。
ここに改めて、厚く御礼申し上げます。

会員死亡通知

浜田　健一	（昭16ギ）	平成23年４月28日	ご家族様より
滝戸　　勉	（昭16セ）	平成22年11月14日	ご家族様より
長谷川由雄	（昭16ヨ）	平成23年３月４日	ご家族様より
藤崎　　仁	（昭17ギ）	昭和55年	土屋　要（昭17ギ）様より
松本　素直	（昭17エ）	平成23年７月25日	田中正晴（昭25エ）様より
杉目　宗尚	（昭18ヨ）	平成23年３月24日	ご家族様より
野々村　貢	（昭19ギ）	平成23年３月２日	ご家族様より
工藤　光信	（昭20ゾ）	平成23年６月22日	阿山多喜也（昭20ゾ）様より
浅加　信雄	（昭22ギ）	平成23年３月27日	ご家族様より
佐藤　敏郎	（昭22ギ）	平成23年３月11日	東日本大震災により
中野　哲男	（昭22セ）	平成23年３月13日	小山嘉幸（昭22セ）様より
北村　弘行	（昭22ゾ）	平成23年３月10日	内藤信行（昭22ゾ）様より
田村　龍彦	（昭23ギ）	平成23年５月19日	服部晴夫（昭23ギ）様より
松田　俊雄	（昭23ギ）	平成23年７月17日	ご家族様より
横山　芳雄	（昭23教ギ）	平成23年３月11日	東日本大震災により
菊池　健三	（昭23ゾ）		ご家族様より
中川　禮次	（昭24教ギ）	平成23年１月10日	ご家族様より
加賀谷昌治	（昭24エ）	平成23年４月１日	ご家族様より
池上　祐幸	（昭24セ）	平成22年	米田国三郎（昭40エ）様より
工藤　　容	（昭24セ）	平成22年10月３日	ご家族様より
永田　昭二	（昭25エ）	平成23年２月23日	鈴木隆三（昭33エ）様より
小幡　昌夫	（昭25セ）	平成23年３月10日	ご家族様より
小倉　敬次	（昭25教セ）	平成22年12月１日	ご家族様より
山代　昭三	（昭25ゾ）	平成23年３月８日	清水富士雄（昭36エ）様より
中垣　伸章	（昭26ギ）	平成23年７月２日	木村順治（昭26ギ）様より
中道　克夫	（昭26ゾ）	平成23年６月21日	ご家族様より
五十嵐脩蔵	（昭28ギ）	平成23年４月21日	伊藤茂弥（昭28セ）様より
濱田二三夫	（昭28セ）	平成22年11月９日	ご家族様より
高木　常昭	（昭29ゾ）	平成23年２月７日	北澤成男（昭29ゾ）様より
長澤　有晃	（昭29ゾ）	平成23年６月22日	北澤成男（昭29ゾ）様より
佐藤　義明	（昭30ゾ）	平成23年３月14日	ご家族様より
谷地健二郎	（昭31セ）	平成23年４月16日	阪井周蔵（昭31セ）様より
野見山晃一	（昭32エ）	平成21年12月７日	ご家族様より
川上　八郎	（昭34エ）	平成23年３月31日	菊地英樹（昭34エ）様より
成瀬　　轟	（昭35ゾ）	平成22年12月５日	ご家族様より
関　　優	（昭39ギ）	平成22年10月20日	ご家族様より
大橋　　功	（昭39セ）	平成23年６月１日	米田国三郎（昭40エ）様より
広田　克之	（昭41エ）	平成19年	ご家族様より
眞木　序夫	（昭42エ）	平成23年４月25日	ご家族様より
春田　廣三	（昭43化）	平成23年４月８日	川野上貞夫（昭44化）様より
谷口　和也	（昭43ゾ）	平成23年４月24日	小野　齋（昭29ギ）様より
小野　隆男	（昭50食）	平成23年３月11日	東日本大震災により
奈良　和俊	（昭50ゾ）	平成23年６月10日	川真田憲治（昭48修ゾ）様より
西原　　豊	（平４食）	平成22年11月14日	ご家族様より
鈴木美奈子	（平14資）	平成22年５月24日	ご家族様より

親潮投稿規定

【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ（2000字程度）までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛のに封書で郵送するか、同窓会メール宛に送付することとする。

【同窓生の声】

同窓会誌に対する意見、感想などについての投稿とする。個人的な連絡は掲載しない。一つの原稿につき300字までとする。同窓会宛のメール（hokusui@hotweb.or.jp）のみ受け付ける。写真は入れられない。

［編集後記］

平成２３年度「親潮」第１号（通算２９７号）をお届けいたします。

3月11日に東日本大震災がございましたが、同窓生の皆様、お元気で御過ごしでしょうか。今回、不幸にも被災された同窓生の方への追悼文を寄稿いただきましたが、原稿によっては、お一人に対して複数お送りいただいた場合もございました。幹事会では、紙面の都合上、先着の原稿を親潮に掲載させていただき、他につきましては北水同窓会のホームページに掲載させていただくことと決定いたしましたので、どうぞご了承ください。

本年度第２号（通算２９８号）の原稿の締め切りは、平成２４年１月１０日（必着）です。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール（hokusui@hotweb.or.jp）にて受付をしております。また、昨年度から同窓の方々の新しい交流形態として「同窓生の声」の広場を設けております。同窓会誌に対するご意見、感想などを募集いたしております。詳しくは上欄、投稿規定をご参照下さい。投稿の数によっては、すべての同窓生の声を掲載できない場合がありますが、皆様ふるってご投稿ください。

（編集幹事／岸村栄毅　昭６０化）

食文化の急速な国際化に伴い水産総合商社を目指す道水

株式会社 道水

代表取締役会長　髙野洋藏（昭和24年製造科卒業）

代表取締役社長　髙野元宏

水産物卸売及び加工販売、水産物輸出入、冷凍冷蔵倉庫、不動産賃貸業

本　社　函館市豊川町27番5号　TEL㈹0138-22-7136　FAX 0138-22-3777

事業所　はこだて工場（北斗市）

東京・札幌・能登・韓国釜山

いま豊かな食生活。
見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場

中水

青森中央水産株式会社

代表取締役社長　石川栄一

〒030-0183　青森市卸町１番１号

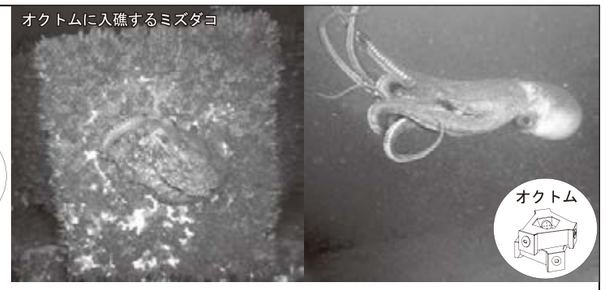
鮮魚部	TEL 017(738)1281
冷凍部	TEL 017(738)8221
塩干部	TEL 017(738)5511
加工部	TEL 017(738)6581
企画部	TEL 017(738)1281
管理部	TEL 017(738)1181

ホームページ　http://www.aochuu.co.jp

海洋土木株式会社

本社　東京都中央区銀座3－9－11

TEL：03-3544-5511　http://www.kaiyodoboku.com



代表取締役鉢木和三（38ゾ）
取締役相談役眞田篤弘（48化）
青森営業所長青山禎夫（39ゾ）
技術部課長日和久典（平6ギ）
専務取締役石井直志（49ゾ）
取締役札幌支店長川眞田憲治（48修増）
札幌支店部長村井和明（59ゾ）